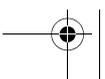
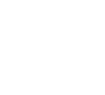
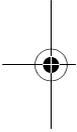
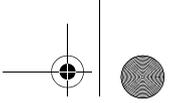


Sibelius 5

アップグレード

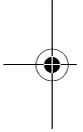




アップグレード
2007年10月

Daniel Spreadbury 著作

この小冊子をよりよいものにしていくために、皆様よりご意見を「最新情報とテクニカルヘルプ」に掲載されているテクニカルヘルプサポートまでご連絡いただければ幸いです。



Sibelius copyright © Sibelius Software, a division of Avid Technology, Inc., and its licensors 1987-2007
Sibelius 5 アップグレード copyright © Sibelius Software, a division of Avid Technology, Inc., 2007
Published by Sibelius Software, The Old Toy Factory, 20-23 City North, Fonthill Road, London N4 3HF, UK

All rights reserved. この小冊子は、発行者による書面での事前の許可なくして、その一部または全部を、電子的方法、記録的方法、機械的方向、写真複写的方法、あるいはその他のいかなる方法によっても、それを複製したり検索システムに保存したりあるいは転送することを禁じます。このリリースノートの作成に際しては十分な注意を払いましたが、誤記あるいは欠落に起因するいかなる損失または損傷に対しても、発行者および著者は責任を負わないものとします。

Sibelius、Sibelius ロゴ、Scorch、Flexi-time、Espressivo、Rubato、Rhythmic feel、Arrange、ManuScript、Virtual Manuscript Paper、Opus、Inkpen2、Reprise、Helsinki、magnetic、multicopy、Optical、Dynamic parts、Panorama、SoundWorld、Ideas、青と白の音符のロゴおよび二重螺旋のロゴ、SibeliusMusic.com、SibeliusEducation.com、「The fastest, smartest, easiest way to write music」および「99% inspiration、1% perspiration」はすべて、米国、英国、およびその他の諸国での Avid Technology, Inc. 社の Sibelius Software 事業部の商標または登録商標です。その他すべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。



目次

はじめに.....	4
インストール	5
Windows でのアップグレード.....	7
Mac でのアップグレード.....	14
既存のスコアのアップグレード.....	20
新機能	23
再生.....	25
アイデア.....	30
パノラマ.....	35
キュー.....	37
楽器.....	39
番号.....	41
Reprise およびその他のフォント.....	43
プラグイン.....	46
ルック & フィール.....	50
その他の改良機能と修正.....	53
付録	65
付録 A：Sibelius 4.1.5 までの改良機能.....	67
付録 B：メニューの変更.....	72
付録 C：キーボードショートカット.....	73

はじめに

このたびは Sibelius 5 にアップグレードいただき、誠にありがとうございます。今回のメジャーアップグレードにより、今までの性能を凌ぐ速度、スマートさ、使いやすさを実感いただけると思います。新しく「アイデア」機能を搭載した本バージョンでは、思いつく限りのメロディ、モチーフ、その他の音楽素材を簡単なキー操作でキャプチャ、整理、復元、再利用が可能です。[パノラマ]では、水平に広がる単一の大譜表にスコアを表示させることができるので、ページのレイアウトを気にせずに独創性を働かせることができます。新しい高品質のサウンドライブラリやあらゆるバーチャルインストルメント、およびエフェクトを Sibelius 内でシームレスに統合できるため、これまでより現実に近い音で再生スコアを聴くことができます。パート譜の楽器のキューを作成する、譜表の任意の場所で楽器を変更する、クリック1つでタイトルや他の空白ページを作成するなど、他にも多くの新機能が満載です。

この小冊子では、Sibelius の新しいバージョンのインストール方法、およびすべての改良機能の概要について説明しています。新機能の使用方法について詳しくは、『リファレンス』（以下を参照）をご覧ください。

アップグレードを使用する前に、この小冊子全体に目を通すことをお勧めします。少なくとも、次の数ページのアップグレード方法に従ってアップグレードを行ってください。

Sibelius リファレンス

Sibelius 5 のマニュアルは、ソフトウェアのインストール方法と基本的な機能について説明した『ハンドブック』、およびこのプログラムのすべての機能について詳しく説明した『リファレンス』の2つで構成されています。『Sibelius 5 ハンドブック』は必要ないため、このアップグレードには付随していません。

『リファレンス』は Sibelius 5 のプログラムに含まれています。[ヘルプ] ▶ [Sibelius リファレンス] (ショートカットは **F1** または **⌘?**) を選択すると、『リファレンス』が Adobe Reader (Windows)、またはプレビュー (Mac) で開きます。

『リファレンス』は冊子としても別途購入できます。詳しくは、www.sibelius.jp をご覧ください。

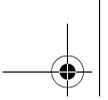
Sibelius 4 以降、『リファレンス』に加えられた主な機能と変更は次のとおりです。

- 「**3. テキスト**」と「**7. ファイル**」が再編成されました。特定のヘルプを見つけやすくするために、項目数を増やし、トピックの説明を短くしました。
- 「**5.4 ダイナミックパート**」は新しい章の「**6. パート譜**」に移動し、短いトピックに分割されました。
- 新機能や改良機能にはすべて、新しいトピックが追加されるか、既存のトピックに大幅な加筆修正が行われました。これらのトピックの参照先は、この小冊子の該当箇所に記載されています。

アップグレードパックの内容

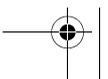
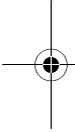
この小冊子以外に次の物が同梱されていることをご確認ください。

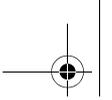
- Sibelius 5 DVD-ROM
- アップグレードコード (シリアル番号の異なる複数の Sibelius のコピーをお持ちの場合は複数のコード)。別紙に記載されています。
- 最新情報とテクニカルヘルプシート
- 『リファレンス』冊子 (アップグレードと一緒に購入した場合)



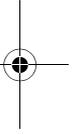
インストール

インストール





インストール



Windows でのアップグレード

重要

Sibelius の旧バージョンがインストールされているコンピュータでアップグレードする場合は、以下の注意が必要です。

- アップグレードをインストールする前に旧バージョンをアンインストールしないこと。
- Sibelius の旧バージョンが登録されていること (Sibelius 2.x の場合は、保存機能を他のコンピュータに移していないこと)。未登録の Sibelius をアップグレードできますが、アップグレード後も未登録のままです。

Sibelius の旧バージョンがインストールされているコンピュータとは別のコンピュータでアップグレードする場合は、以下の注意が必要です。

- Sibelius 4 からアップグレードする場合は、Sibelius 5 を新しいコンピュータにインストールする前に、旧コンピュータから Sibelius を起動し、[ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録を解除] を選択して、インターネット経由で Sibelius の登録を解除します。
- Sibelius 2 からアップグレードする場合は、Sibelius 5 を新しいコンピュータにインストールする前に、旧コンピュータから旧バージョンをアンインストールします (13 ページの「旧バージョンの Sibelius のアンインストール」を参照)。

Sibelius の旧バージョンに関係なく、Sibelius 5 を新しいコンピュータにインストールする場合は、その新しいコンピュータに旧バージョンをインストールする必要はありません。

システム必要条件

Sibelius 5 のみのシステム必要条件：

Windows XP SP2 または Windows Vista、512MB 以上の RAM、350MB のハードディスク容量、DVD-ROM ドライブ

Sibelius Sounds Essentials および Kontakt Player 2 を使用し、特にスコアに楽器数が多い場合の必要条件：

1GB 以上の合計 RAM、3.5GB の合計ハードディスク容量、ASIO 準拠のサウンドカード

コンピュータが推奨必要条件を満たしていなくても、Sibelius Sounds Essentials を使用できますが、同時に多くの音源は使用できません。

Sibelius 5 をインストールし、起動するには、少なくとも Windows XP Service Pack 2 を実行している必要があります。Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows 2000、Windows NT 4.x のいずれかを使用している場合は、最新 Windows オペレーティングシステムにアップグレードする必要があります。

Windows XP Service Pack 2 を使用しているかどうかを調べる方法

Windows XP をお持ちで、Windows XP Service Pack 2 がインストールされているかどうか分からない場合は、次の手順に従います。

- [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行 ...] を選択します。
- 開いたボックスに「winver」を入力し、Return キー (メインキーボード) を押します。

インストール

- 次のような単純なウィンドウが表示されます。



テキストの 2 行目の最後に「**Service Pack 2**」があるはずですが、ない場合は、Service Pack 2 にアップデートする必要があります。一番簡単なアップデート方法は、[スタート] メニューから **[Windows Update]** を選択して、自動的にダウンロードすることです。Sibelius を実行したいコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、CD-ROM の Windows XP Service Pack 2 を入手するか、他の場所でダウンロードしたものを CD に焼き、コンピュータで使用します。詳しくは、<http://www.microsoft.com/japan/athome/security/protect/windowsxp/default.msp> を参照してください。

複数のコピーとサイトのライセンス

Sibelius の 5 パックのように同じシリアル番号を使用して複数のコピーをインストールする場合は、2 番目の登録またはラップトップコピーの際に、同じ手順に従い、同じアップグレードコードを使用して各コンピュータでアップグレードします。

複数の Sibelius シリアル番号（たとえば、2 組の 5 パックなど）をお持ちの場合は、そのコンピュータで使用された Sibelius シリアル番号に適用されるアップグレードコードを使用して、各コンピュータのアップグレード手順に従ってください。各アップグレードパックに付随するアップグレードコードには、どのシリアル番号に適用されるかが示されています。コンピュータにどのシリアル番号が使用されているのかわからなくても、心配はいりません。アップグレードコードの入力時に指示されます。

管理者権限

コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントを使用して、Sibelius をインストールする必要があります。インストール後に Sibelius を登録するために、管理者ユーザーアカウントを使用するか、求めに応じて管理者ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

そのため、Sibelius 5 のインストール後、管理者ユーザーとして起動し、登録（または登録解除）するようにしてください。

ソフトウェアの登録後、他のアプリケーションと同様に一般ユーザーとして Sibelius を起動し、システムのセキュリティを確保します。

自分がコンピュータを使用する唯一のユーザーであるか、コンピュータのユーザーアカウントや管理者権限について何も知らない場合は、上記の内容を無視し、通常どおりにソフトウェアをインストールしてかまいません。

アップグレードのインストール

- 実行中のプログラムがあれば終了します。たとえば McAfee Virus Scan や Norton AntiVirus のように起動時に自動的にロードされるアンチウイルスプログラムを終了するようにしてください。

Windows でのアップグレード

- Sibelius DVD-ROM をケースから取り出し、コンピュータの DVD-ROM ドライブに挿入して（ラベルが印刷された側を上）、ドライブスロットを閉じます。
- 数秒待ちます。DVD-ROM ドライブが作動し、ダイアログは画面に表示されます
- （しばらく何も起きない場合は、[スタート] メニューをクリックして [ファイル名を指定して実行 ...] を選択し、「X:\amplayer」と入力します。この X は、DVD-ROM のドライブ名です。それから、メインキーボードの **Return** キーを押します）。
- Windows Vista では、小さな [自動再生] ウィンドウが表示されます。[プログラムのインストール / 実行] の下の、[amplayer.exe の実行] をクリックします。
- メインインストールウィンドウで、[Sibelius 5 をインストール] をクリックすると、Sibelius のアップグレードが開始します。
- Windows Vista では、画面が暗くなることもあり、それから [ユーザーアカウント制御] ウィンドウが表示されます。インストールの作業を進めている場合は、[許可] をクリックします。
- Microsoft Windows Installer がコンピュータにインストールされていない場合は、インストールするよう求められます。[インストール] をクリックし、Windows Installer キットがインストールされるのを待ちます。数分かかることがあります。
- 次に、Microsoft .NET Framework 2.0 がコンピュータにインストールされていない場合は、インストールするよう求められます。[インストール] をクリックすると、使用許諾契約を読むように求められます。[同意する] をクリックして表示された使用許諾契約を承諾し、.NET Framework がインストールされるのを待ちます。数分かかることがあります。
- 次に、Visual C++ Runtime Libraries をインストールするよう求められます。[インストール] をクリックし、ライブラリがインストールされるのを待ちます。
- しばらくすると、[Sibelius 5 Installation Wizard へようこそ] ウィンドウが表示されます。[次へ] をクリックします。
- Sibelius 使用許諾契約に目を通してください（『リファレンス』の最後にも記載されています）。[ライセンス契約に同意します] をクリックし、[次へ] をクリックします。
- インストーラは、Sibelius をインストールするフォルダを表示します。Sibelius が参照する場所を指定する特別な理由があり、設定を変更する方法を知らない限り、このままにしておきます。Sibelius を [すべてのユーザー] か [現在のユーザー] を選択するように求められます。この選択で、コンピュータを使用するすべての人のデスクトップに Sibelius ショートカットアイコンを表示するのか、自分だけにするのかが決まります。[すべてのユーザー] にすると良いでしょう。[次へ] をクリックします。
- Sibelius のインストールの準備が整ったことが表示されます。[次へ] をクリックします。
- Sibelius のインストール中に画面の物が光り飛び交います。作業に数分かかることがあります。
- インストーラが終了し、[完了] をクリックすると、最初に DVD-ROM を挿入したときに表示されたウィンドウに戻ります。

Sibelius 5 を起動する前に、Sibelius 5 DVD-ROM から他のアプリケーションをインストールするかどうか決めてください。

Sibelius Sounds Essentials のインストール

Sibelius Sounds Essentials は Sibelius の使用する高音質のサウンドライブラリです（詳しくは、25 ページの「Sibelius Sounds Essentials」を参照）。インストール手順は次のとおりです。

- Sibelius 5 DVD-ROM を挿入したときに表示されたウィンドウがまだ開いている場合は、そのウィンドウの [Sibelius Sounds Essentials をインストール] をクリックしてインストールを開始します。ウィンドウが表示されていない場合は、再び Sibelius 5 DVD-ROM を挿入して、表示されるのを待ちます。

インストール

- しばらくするとインストーラが開始します。[Next] をクリックします。
- Sibelius Sounds Essentials 使用許諾契約に目を通してください。それから、[I Accept] をクリックします。
- サウンドライブラリのインストールにしばらく時間がかかることが表示され、作業が停止したように見えることがあります。[Next] をクリックします。
- Sibelius Sounds Essentials に使用されるサンプルプレイヤーである Kontakt Player 2 のインストール位置が表示されます。標準設定の場所を受け入れるようにしてください。[Next] をクリックします。
- サンプルライブラリ自体のインストール位置が表示されます。サンプルライブラリのサイズは約 3GB です。選択された位置に十分な容量があることを確認してください。その場所の容量が不十分でない限り、通常は示唆された場所にします。[Next] をクリックします。
- 次に、Kontakt Player 2 VST バーチャルインストゥルメントのインストール位置が表示されます。標準設定の場所は **C:\Program Files\Sibelius Software\VSTPlugins** です。変更しないでください。[Next] をクリックします。
- 最後に、Sibelius Sounds Essentials のアイコンを追加する [スタート] メニューグループの名前を選択するよう求められます。[Next] をクリックします。
- Sibelius Sounds Essentials のインストール中に画面の物が光り飛び交います。[Time remaining] の表示が残り 0 秒になってもしばらく何も起きませんが、これは正常です。ライブラリがインストールされるまでしばらくお待ちください。しばらく時間がかかります。
- Sibelius Sounds Essentials が正常にインストールされたことがメッセージで表示されます。[Finish] をクリックします。

Scorch のインストール

ここで、最新バージョンの Scorch をインストールする必要があります。Scorch は、インターネットで Sibelius のスコアの表示、再生、移調、印刷などを行うためのプラグインの無料ウェブブラウザです。

- Sibelius 5 DVD-ROM を挿入したときに表示されたウィンドウがまだ開いている場合は、そのウィンドウの [Scorch をインストール] をクリックしてインストールを開始します。ウィンドウが表示されていない場合は、再び Sibelius 5 DVD-ROM を挿入して、表示されるのを待ちます。
- すぐに、[Welcome to the Sibelius Scorch Setup Wizard] ウィンドウが表示されます。[Next] をクリックします。
- Scorch 使用許諾契約に目を通してください。読んだら、[I Agree] ラジオボタンをクリックし、それから [Next] をクリックします。
- Scorch のインストールフォルダを選択するよう求められます。再び、[Next] をクリックします。
- Scorch のインストールの準備が整ったことが表示されます。[Next] をクリックします。
- Scorch のインストール中に画面の物が光り飛び交います。それほど時間はかかりません。
- インストーラが完了したら、[閉じる] をクリックします。

PhotoScore Lite のインストール

アップグレードとともに PhotoScore Ultimate を購入したか、すでに PhotoScore Ultimate (または PhotoScore Professional の旧バージョン) をインストールしていない限り、ここで Sibelius 5 DVD-ROM から PhotoScore Lite の最新バージョンをインストールする必要があります。

Windows でのアップグレード

- Sibelius 5 DVD-ROM を挿入したときに表示されたウィンドウがまだ開いている場合は、そのウィンドウの **[PhotoScore Lite をインストール]** をクリックしてインストールを開始します。ウィンドウが表示されていない場合は、再び Sibelius 5 DVD-ROM を挿入して、表示されるのを待ちます。
- 画面の解像度を 1024 x 768 よりも低く設定している場合は、高く設定するように求めるメッセージが表示されます。 **[OK]** をクリックします。
- **[Next]** をクリックすると、PhotoScore Lite の使用許諾契約が表示されます。目を通し、 **[Next]** をクリックします。
- 情報を入力するよう求められます。 **[Name]** を入力してください。 **[Product ID]** フィールドは自動的に入力されています。フォームの入力が終わったら、 **[Next]** をクリックします。
- PhotoScore Lite のインストール位置が表示されます。特別な理由があれば、位置を変更できます。特に理由がなければ、 **[Next]** をクリックします。
- **[Next]** を再びクリックすると、PhotoScore Lite がインストールされます。次に、 **[Finish]** をクリックします。

Sibelius Sounds 製品のアップグレード

Kontakt Gold (Sibelius Sounds Gold と名前が変わりました)、Garritan Personal Orchestra Sibelius Edition、Sibelius Rock & Pop Collection などは、Sibelius 5 と併用できるように製品をアップグレードする必要があります。以下の Sibelius ウェブサイトからこれらの製品の無料アップグレードをダウンロードできます。

http://www.sibelius.com/products/sibelius_sounds/upgrade.html

初めての起動

初めて Sibelius 5 を起動するとアップグレード手順が完了します。

- Windows XP :
 - デスクトップのアイコンをダブルクリックするか、 **[スタート] ▶ [すべてのプログラム] ▶ [Sibelius Software] ▶ [Sibelius 5]** を選択して、Sibelius 5 を起動します。次に、以下の手順に従います。
 - 管理者ユーザーとしてログインしていない場合は、管理者ユーザー名とパスワードの入力を求められます。
- Windows Vista の場合 :
 - **[スタート]** ボタンをクリックします。
 - メニューから **[コンピュータ]** を選択してコンピュータのディスクドライブを表示します。
 - **C:\Program Files\Sibelius Software\Sibelius 5** へ移動します。
 - **[Sibelius]** アプリケーションアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから **[管理者として実行]** を選択します (Sibelius を正常にアップグレードした後、プログラムを終了し、それから通常どおり **[スタート]** メニューのショートカットから起動できます。アップグレード作業を完了したら、 **管理者として実行** する必要はありません)。
 - Windows Vista の管理者ユーザーとしてログインしている場合は、作業の続行許可を与えるように求められることがあります。
- Sibelius の登録済み旧バージョンがコンピュータにインストールされているかどうか尋ねられます。Sibelius の旧バージョンがインストールされているコンピュータでアップグレードする場合は、 **[はい]** をクリックし、次の手順に従います。

インストール

- コンピュータにインストールされている Sibelius のコピーの全リストが表示されます。通常は 1 つのコピー（これからアップグレードする Sibelius のコピー）がリストされます。それを選択し、**[OK]** をクリックします。
- **[アップグレードコードの入力]** ダイアログが表示されます。名前を入力し、それから、アップグレードコードを入力します。アップグレードコードはアップグレードパック内に含まれている用紙に印刷されています。アップグレードコードを入力し、**[OK]** をクリックします。複数の Sibelius シリアル番号があり、複数のアップグレードコードをお持ちの場合は、シリアル番号に適切なアップグレードコードを必ず入力してください（間違えて入力した場合は警告されます）。
- **[OK]** をクリックすると、Sibelius 5 のスプラッシュ画面が表示されます。

Sibelius の旧バージョンがインストールされているコンピュータとは別のコンピュータにアップグレードをインストールする場合は、**[いいえ]** をクリックし、次の手順に従います。

- Sibelius シリアル番号を入力するよう求められます。シリアル番号は **S** で始まる番号で、Sibelius のオリジナル CD ケースの裏に記載されています。
- **[OK]** をクリックすると、Sibelius 5 のスプラッシュ画面が表示されます。
- 次に、Sibelius を登録するよう求められます。ここで必ず登録してください。**[インターネット]** ラジオボタンを選択して、**[次へ]** をクリックし、画面の指示に従います。Sibelius の登録のヘルプが必要な場合は、『ハンドブック』の「ユーザーの登録」を参照してください。
- Sibelius が正常に登録されたことがメッセージで表示されます。
- Sibelius を起動すると、**[クイックスタート]** ダイアログが表示されます。このダイアログを起動時に表示させたくない場合は、**[Sibelius 起動時に毎回表示する]** をオフにします。

これで、Sibelius のインストールが終了しました。Sibelius 5 DVD-ROM を取り出し、Sibelius CD-ROM の既存のケースにしまって、古い用済みの Sibelius CD-ROM を廃棄します。新しい DVD を必ず旧バージョンのケースにしまってください。このケースの裏にシリアル番号があるからです。

旧ファイルの復元

Sibelius の旧バージョンで、プラグイン、譜面用紙、機能セット、アレンジスタイルなどを書くかカスタマイズしていた場合があります。Sibelius のバージョンごとに、これらのファイルを格納する場所が異なります。Sibelius 5 でそれらを使用したい場合は、古い位置から新しい適切な位置に手動でコピーする必要があります。Sibelius 5 のユーザー作成ファイルの格納場所を見つけるには、次の手順に従います。

- **[マイ コンピュータ]** をダブルクリックするか、**[Windows エクスプローラ]** ウィンドウを開きます。
- **[ツール]** ▶ **[フォルダ オプション]** を選択し、**[表示]** タブをクリックします。
- **[詳細設定]** の下で、**[すべてのファイルとフォルダを表示する]** が選択されていることを確認します。
- **[OK]** をクリックして、**[フォルダ オプション]** ダイアログを閉じます。
- Windows のバージョンに適切なフォルダを開きます。
 - Windows XP の場合：**C:\¥Documents and Settings¥** ユーザー名 **¥Application Data¥**
 - Windows Vista：**C:\¥Users¥** ユーザー名 **¥AppData¥Roaming¥**
- **Sibelius Software** フォルダがあります。それをダブルクリックして開きます。フォルダが見つからない場合は、**[ファイル]** ▶ **[新規作成]** ▶ **[フォルダ]** を選択し、新しいフォルダを作成して、フォルダ名として **「Sibelius Software」** と入力します。この新規のフォルダをダブルクリックして開きます。

Windows でのアップグレード

- **[ファイル] ▶ [新規作成] ▶ [フォルダ]** を再び選択し、フォルダ名として「**Sibelius 5**」と入力します。この新しいフォルダをダブルクリックして開きます。

ここがプラグインや譜面用紙などのカスタマイズされたデータを Sibelius 5 が格納する場所で、タイプごとに専用のフォルダがあります。

これらのファイルのいずれかを修正しており、Sibelius 4 からアップグレードする場合は、同じ場所にすでに **Sibelius 4** フォルダがあります。**Sibelius 4** フォルダにあるフォルダを新しい **Sibelius 5** フォルダにドラッグします。

Sibelius 2、Sibelius 3 のいずれかからアップグレードする場合は、古い場所にあるカスタマイズされ、維持したいファイルのみを次に示す新しい場所に移動する必要があります。

コンポーネントタイプ	旧位置：C:\Program Files\Sibelius Software\Sibelius 3¥	Sibelius 5 の位置：..\Sibelius Software\Sibelius 5¥
アレンジスタイル	Arrange Styles¥	Arrange Styles¥
ハウスタイル	House Styles¥	House Styles¥
譜面用紙	Manuscript paper¥	Manuscript paper¥
機能セット	Menus and Shortcuts¥	Menus and Shortcuts¥
プラグイン	Plugins¥	Plugins¥
Scorch ウェブプレート	Manuscript paper¥	Scorch Templates¥
テクスチャー	Textures¥	Textures¥

バージョンにかかわらず、アップグレードの際に以下に注意してください。

- Manuscript の変更が原因で、作成するか編集したプラグインは Sibelius 5 とは併用できません。詳しくは、**Extras** フォルダにある Manuscript のマニュアルを参照してください。
- サウンドセットの変更が原因で、Sibelius の旧バージョンで作成されたサウンドセットは、Sibelius 5 とは併用できません。
- Sibelius 5 の新機能の多くを利用するには、新しい Sibelius 5 ハウスタイルのいずれかを既存のスコアと譜面用紙にインポートするか、Sibelius 5 で最初から譜面用紙を作成する必要があります。

旧バージョンの Sibelius のアンインストール

Sibelius 2.x、3.x、4.x のいずれかの旧コピーがまだコンピュータにあり、登録を解除されている場合は、アンインストールするようにしてください。Sibelius をアンインストールするには、**[スタート] ▶ [設定] ▶ [コントロールパネル]** を選択し、**[プログラムの追加と削除]** (Windows XP) または **[プログラムと機能]** (Windows Vista) をダブルクリックします。

リストには **[Sibelius]**、**[Sibelius 2]**、**[Sibelius 3]**、**[Sibelius 4]** のいずれかと **[Sibelius 5]** があるはずですが、旧バージョンを選択して、**[変更と削除]** (Windows XP) または **[アンインストール]** (Windows Vista) をクリックします。**[Sibelius 5]** を選択してはいけません。選択すると新しいバージョンが削除されてしまいます。次に、画面の指示に従い、旧バージョンをアンインストールします。

インストール

Macでのアップグレード

重要

Sibeliusの旧バージョンがインストールされているコンピュータでアップグレードする場合は、以下の注意が必要です。

- アップグレードをインストールする前に旧バージョンをアンインストールしないこと。
- Sibeliusの旧バージョンが登録されていること（Sibelius 2.xの場合は、保存機能を他のコンピュータに移していないこと）。未登録のSibeliusをアップグレードできますが、アップグレード後も未登録のままです。

Sibeliusの旧バージョンがインストールされているコンピュータとは別のコンピュータでアップグレードする場合は、以下の注意が必要です。

- Sibelius 3 か Sibelius 4 からアップグレードする場合は、Sibelius 5 を新しいコンピュータにインストールする前に、旧コンピュータから Sibelius を起動し、[ヘルプ] ▶ [Sibelius の登録を解除] を選択して、インターネット経由で Sibelius の登録を解除します。
- Sibelius 2 からアップグレードする場合は、Sibelius 5 を新しいコンピュータにインストールする前に、旧コンピュータから旧バージョンをアンインストールします（19 ページの「旧バージョンの Sibelius のアンインストール」を参照）。

Sibeliusの旧バージョンに関係なく、Sibelius 5を新しいコンピュータにインストールする場合は、その新しいコンピュータに旧バージョンをインストールする必要はありません。

システム必要条件

Sibelius 5 はユニバーサルアプリケーションですから、PowerPC プロセッサ搭載の旧 Mac でも Intel プロセッサ搭載の新 Mac でも作動します。



Sibelius 5 のみのシステム必要条件：

Mac OS X 10.4 以降、512MB 以上の RAM、350MB のハードディスク容量、DVD-ROM ドライブ

Sibelius Sounds Essentials および Kontakt Player 2 を使用し、特にスコアに楽器数が多い場合の必要条件：

G5 または Intel プロセッサ、1GB 以上の合計 RAM、3.5GB の合計ハードディスク容量

コンピュータが推奨必要条件を満たしていても、Sibelius Sounds Essentials を使用できませんが、同時に多くの音源は使用できません。

Mac OS X 10.4 より前のバージョンの Mac OS X を実行している場合は、Sibelius をインストールできません。有料ですが、Mac OS X をアップグレードするようにしてください。詳しくは、www.apple.com/jp を参照してください。

Sibelius を使用する際に Mac OS X の最新バージョンを実行するようにしてください。[システム環境設定] の [ソフトウェア・アップデート] パネルで最新バージョンをしていることを確認してください。

Mac OS X 10.4 Tiger 以降を使用しているかどうかを調べる方法

Apple メニューから **【この Mac について】** を選択します。次のような単純なウィンドウが表示されます。



「**Mac OS X**」の大きなテキストの真下に、「バージョン 10.4.9」のようなテキストがあります。この数字が「**10.4**」以上で始まっている場合は、Mac OS X 10.4 Tiger 以降の Mac OS X が実行されており、Sibelius 5 をインストールして起動できます。

複数のコピーとサイトのライセンス

Sibelius の 5 パックのように同じシリアル番号を使用して複数のコピーをインストールする場合は、2 番目の登録またはラップトップコピーの際に、同じ手順に従い、同じアップグレードコードを使用して各コンピュータでアップグレードします。

複数の Sibelius シリアル番号（たとえば、2 組の 5 パックなど）をお持ちの場合は、そのコンピュータで使用された Sibelius シリアル番号に適用されるアップグレードコードを使用して、各コンピュータのアップグレード手順に従ってください。各アップグレードパックに付随するアップグレードコードには、どのシリアル番号に適用されるかが示されています。コンピュータにどのシリアル番号が使用されているのかわからなくても、心配はいりません。アップグレードコードの入力時に指示されます。

管理者権限

Sibelius 5 を正しくインストールし登録するために、管理者権限のあるユーザーアカウントを使用して、コンピュータにログインする必要があります。

そのため、Sibelius 5 のインストール後、管理者ユーザーとして起動し、登録（または登録解除）するようにしてください。

ソフトウェアの登録後、他のアプリケーションと同様に一般ユーザーとして Sibelius を起動し、システムのセキュリティを確保します。

自分がコンピュータを使用する唯一のユーザーであるか、コンピュータのユーザーアカウントや管理者権限について何も知らない場合は、上記の内容を無視し、通常どおりにソフトウェアをインストールしてかまいません。

アップグレードのインストール

- Sibelius DVD-ROM をケースから取り出し、コンピュータの DVD-ROM ドライブに挿入して（ラベルの貼られた側が上）、ドライブスロットを閉じます。
- 数秒待ちます。[**Sibelius 5**] のラベルの DVD アイコンがデスクトップに表示されたら、ウィンドウが自動的に開きます。開かない場合は [**Sibelius 5**] アイコンをダブルクリックします。

インストール

- アップグレードをインストールするには、DVD の **[Sibelius 5]** アイコンを Mac のハードディスクの **アプリケーション** フォルダ内へドラッグします。DVD のウィンドウ内の **[Sibelius 5]** アイコンをダブルクリックしないでください。Sibelius が DVD から起動し、正しく作動しません。
- アプリケーションのコピー状況を示すバーが表示され、Sibelius が正常にインストールされると、バーが消えます。

Sibelius 5 を起動する前に、Sibelius 5 DVD-ROM から他のアプリケーションをインストールするかどうか決めてください。

Sibelius Sounds Essentials のインストール

Sibelius Sounds Essentials は Sibelius の使用する高音質のサウンドライブラリです (詳しくは、25 ページの「Sibelius Sounds Essentials」を参照)。インストール手順は次のとおりです。

- Sibelius 5 DVD-ROM が挿入されていない場合は挿入します。
- **[Install Sibelius Sounds Essentials]** をダブルクリックして、インストールを開始します。
- 管理者パスワードの入力を求められます。入力し、**[OK]** をクリックします。
- しばらくすると、Kontakt Player 2 をインストールする位置を選択するように求められます。標準設定では、Mac のメインハードディスクの **アプリケーション** フォルダ内に **Kontakt Player 2** フォルダが作成されます。他の場所にしない限り、**[Continue]** をクリックします。
- 次に、**[Easy Install]** か **[Custom Install]** を選択するように求められます。**[Easy Install]** のままにし、**[Install]** をクリックします。
- サンプルライブラリのインストール状況を示すバーが画面に表示されます。完了まで数分かかります。何事も起きていないように見えてもしばらくお待ちください。
- これでインストールが完了しました。**[Quit]** をクリックするとインストーラが閉じます。

Scorch のインストール

Sibelius Scorch (インターネットで Sibelius のスコアの表示、再生、移調、印刷を可能にするソフトウェア) の最新バージョンをインストールするために、**[Sibelius 5]** DVD ウィンドウ内の **その他のアプリケーション** フォルダをダブルクリックします。小さなアイコンを持つ別のウィンドウが表示されます。**[Scorch をインストール]** をダブルクリックします。

- コンピュータの管理者のパスワードを入力するよう求められます。入力し、**[OK]** をクリックします。
- 表示された Scorch の使用許諾に目を通し、**[Agree]** をクリックします。
- 次の画面で、**[インストール]** をクリックします。
- 進行状況を示すバーが画面に表示され、インストールの完了を示すメッセージが表示されます。**[閉じる]** をクリックします。

PhotoScore Lite のインストール

アップグレードとともに PhotoScore Ultimate を購入したか、すでに PhotoScore Ultimate (または PhotoScore Professional の旧バージョン) をインストールしていない限り、ここで PhotoScore Lite の最新バージョンをインストールする必要があります。**[Sibelius 5]** DVD ウィンドウ内の **その他のアプリケーション** フォルダをダブルクリックします。小さなアイコンを持つ他のウィンドウが表示されます。それから **[Install PhotoScore Lite]** をダブルクリックします。

- 表示された PhotoScore Lite の使用許諾に目を通し、**[Accept]** をクリックします。

- 次の画面で、**[Install]** をクリックします。
- 進行状況を示すバーが画面に表示され、インストールの完了を示すメッセージが表示されます。**[Quit]** をクリックします。

Sibelius Sounds 製品のアップグレード

Kontakt Gold (Sibelius Sounds Gold と名前が変わりました)、Garritan Personal Orchestra Sibelius Edition、Sibelius Rock & Pop Collection などは、Sibelius 5 と併用できるように製品をアップグレードする必要があります。以下の Sibelius ウェブサイトからこれらの製品の無料アップグレードをダウンロードできます。

http://www.sibelius.com/products/sibelius_sounds/upgrade.html

初めての起動

初めて Sibelius 5 を起動するとアップグレード手順が完了します。そのため、**アプリケーションフォルダ**内の **[Sibelius 5]** アイコンをダブルクリックして Sibelius を起動します。

- コンピュータの管理者のパスワードを入力するよう求められます。入力し、**[OK]** をクリックします。
- **Sibelius の使用許諾契約**が表示されます。入力し、**[同意する]** をクリックします。
- Sibelius の旧バージョンがコンピュータにインストールされているかどうか尋ねられます。

Sibelius の旧バージョンがインストールされているコンピュータでアップグレードする場合は、**[はい]** をクリックし、次の手順に従います。

- コンピュータにインストールされている Sibelius のコピーの全リストが表示されます。通常は 1 つのコピー（これからアップグレードする Sibelius のコピー）がリストされます。それを選択し、**[OK]** をクリックします。
- **[アップグレードコードの入力]** ダイアログが表示されます。名前を入力し、それから、アップグレードコードを入力します。アップグレードコードはアップグレードバック内に含まれている用紙に印刷されています。アップグレードコードを入力し、**[OK]** をクリックします。複数の Sibelius シリアル番号があり、複数のアップグレードコードをお持ちの場合は、シリアル番号に適切なアップグレードコードを必ず入力してください（間違えて入力した場合は警告されます）。
- **[OK]** をクリックすると、Sibelius 5 のスプラッシュ画面が表示されます。

Sibelius の旧バージョンがインストールされているコンピュータとは別のコンピュータにアップグレードをインストールする場合は、**[いいえ]** をクリックし、次の手順に従います。

- Sibelius シリアル番号を入力するよう求められます。シリアル番号は **S** で始まる番号で、Sibelius のオリジナル CD ケースの裏に記載されています。
- **[OK]** をクリックすると、Sibelius 5 のスプラッシュ画面が表示されます。
- 次に、Sibelius を登録するよう求められます。ここで必ず登録してください。**[インターネット]** ラジオボタンを選択して、**[次へ]** をクリックし、画面の指示に従います。Sibelius の登録のヘルプが必要な場合は、『ハンドブック』の「**ユーザー登録**」を参照してください。
- Sibelius が正常に登録されたことがメッセージで表示されます。
- Sibelius を起動すると、**[クイックスタート]** ダイアログが表示されます。このダイアログを起動時に表示させたくない場合は、**[Sibelius 起動時に毎回表示する]** をオフにします。

これで、Sibelius のインストールが終了しました。Sibelius 5 DVD-ROM を取り出し、Sibelius CD-ROM の既存のケースにしまって、古い用済みの Sibelius CD-ROM を廃棄します。新しい DVD を必ず旧バージョンのケースにしまってください。このケースの裏にシリアル番号があるからです。

インストール

旧ファイルの復元

上級者用

Sibelius の旧バージョンで、プラグイン、譜面用紙、機能セット、アレンジスタイルなどを書くかカスタマイズしていた場合があります。Sibelius のバージョンごとに、これらのファイルを格納する場所が異なります。Sibelius 5 でそれらを使用したい場合は、古い位置から新しい適切な位置に手動でコピーする必要があります。

Sibelius 5 のユーザー作成ファイルの格納場所を見つけるには、次の手順に従います。

- 新しい Finder ウィンドウを開きます。
- /ユーザ/ ユーザ名 /ライブラリ /Application Support を開きます
- **Sibelius Software** フォルダがあります。それをダブルクリックして開きます。フォルダが見つからない場合は、**⌘N** を入力して新しいフォルダを作成し、フォルダ名として「**Sibelius Software**」と入力します。この新しいフォルダをダブルクリックして開きます。
- **⌘N** を再び入力し、フォルダ名として「**Sibelius 5**」と入力します。この新しいフォルダをダブルクリックして開きます。

ここがプラグインや譜面用紙などのカスタマイズされたデータを Sibelius 5 が格納する場所で、タイプごとに専用のフォルダがあります。

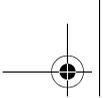
これらのファイルのいずれかを修正しており、Sibelius 4 からアップグレードする場合は、同じ場所にすでに **Sibelius 4** フォルダがあります。**Sibelius 4** フォルダにあるフォルダを新しい **Sibelius 5** フォルダにドラッグします。

Sibelius 2、Sibelius 3 のいずれかからアップグレードする場合は、古い場所にあるカスタマイズされ、維持したいファイルのみを次に示す新しい場所に移動する必要があります。

コンポーネントタイプ	旧位置 : /アプリケーション / Sibelius 3/	Sibelius 5 の位置 : / ユーザ / ユーザ名 / ライブラリ /Application Support/Sibelius Software/Sibelius 5/
アレンジスタイル	Arrange Styles/	Arrange Styles/
ハウススタイル	House Styles/	House Styles/
譜面用紙	Manuscript paper/	Manuscript paper/
機能セット	Menus and Shortcuts/	Menus and Shortcuts/
プラグイン	Plugins/	Plugins/
Scorch ウェブテンプレート	Manuscript paper/	Scorch Templates/
サウンドセット	Sounds/	Sounds/
テクスチャー	Textures/	Textures/

バージョンにかかわらず、アップグレードの際に以下に注意してください。

- ManuScript の変更が原因で、作成するか編集したプラグインは Sibelius 5 とは併用できません。詳しくは、**Extras** フォルダにある ManuScript のマニュアルを参照してください。
- サウンドセットの変更が原因で、Sibelius の旧バージョンで作成されたサウンドセットは、Sibelius 5 とは併用できません。
- Sibelius 5 の新機能の多くを利用するには、新しい Sibelius 5 ハウススタイルのいずれかを既存のスコアと譜面用紙にインポートするか、Sibelius 5 で最初から譜面用紙を作成する必要があります。

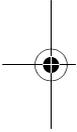


旧バージョンの Sibelius のアンインストール

Sibelius 2、3、4 のいずれかの旧コピーがまだコンピュータにあり、登録を解除されている場合は、アンインストールするようにしてください。

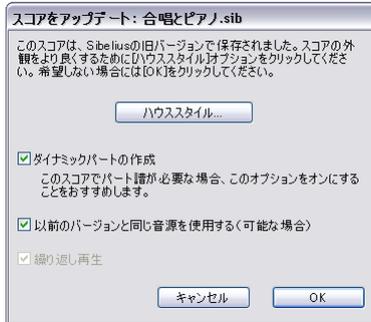
Sibelius 2 からアップグレードした場合は、すでに作成したスコアの標準設定の格納場所は、**Sibelius 2** プログラムフォルダにある **Scores** フォルダですのでご注意ください。そのため、Sibelius 2 をアンインストールする前に、**Scores** フォルダを **Sibelius 2** プログラムフォルダの外へ移動し、楽譜をすべて削除してしまわないようにしてください。

旧フォルダ (**Sibelius 2** または **Sibelius 3**) または **Sibelius 4** のアプリケーションアイコンを見つけ、ゴミ箱へドラッグします。



インストール

既存のスコアのアップグレード



最後に旧バージョンの Sibelius で保存されたスコアを Sibelius 5 で初めて開くと、左に示す【スコアのアップデート】ダイアログが表示されます。

このダイアログでスコアのオプションをオンにし、外観を改善して、新機能を有効にすることができます。【キャンセル】をクリックすると、ファイルは開きません。【OK】をクリックすると、選択したオプションが適用された状態でファイルが開きます。

メインダイアログの以下の3つのオプションは、スコアの外観に影響しません。

- 【**ダイナミックパートの作成**】で、ダイナミックパートの標準設定のセットをスコアに作成するかどうかを決めます。スコアにすでにパート譜がある場合（すでに Sibelius 4 で作成した場合）は、このオプションは無効になります。
- 【**繰り返し再生**】はスコア内のリピート小節線を再生に反映させるかどうかを決定します。このオプションは初期バージョンの Sibelius 以外ではすべて標準設定で有効になっているため、通常、このチェックボックスは無効になっています。有効になっている場合は、オンにして再生が正しく行われ、スコア内の小節番号が正しく表示されているか確認してください。
- 【**旧バージョンと同じサウンドを使用(可能な場合)**】を使うと、前回保存した Sibelius の旧バージョンを使って再生したものと同じサウンドをスコア内の各譜表で保持するかを選択できます。このオプションは、スコアの前回保存時に使用していたデバイスに Sibelius 5 互換のサウンドセットがインストールされている場合にのみ有効となります。既存のスコアの再生について詳しくは、以下の**既存のスコアの再生**を参照してください。

スコアに、マグネティックスラーと連音符、連桁（オプティカル）、タイ（オプティカル）、オプティカルスペーシングなどの新しい他の機能を利用したい場合は、【**ハウスタイル**】をクリックすると表示されるダイアログ（右図）で設定できます。

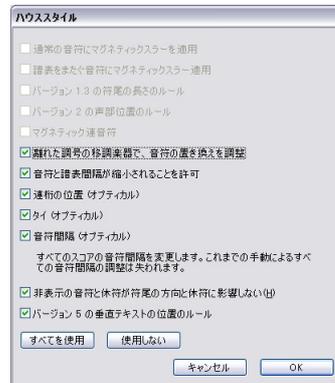
【**ハウスタイル**】ダイアログのすべてのオプションはスコアの外観を変更し、改善します。ただし、オプションをオンにした場合は、予想外の結果にならないことを確認する必要があります。

スコアが最後に保存された Sibelius のバージョンにより、オプションの有効 / 無効が異なります。ダイアログを使用するたびに、Sibelius は、どのオプションが選択されたかを記憶します。そのため、一般的に Sibelius 5 内でスコアを常に最新に保ちたい場合は、【**すべてを使用**】をクリックしてください。すべてのオプションが有効になり（現在開いているスコアで利用できない場合でも）、今後再び【**ハウスタイル**】ダイアログを開く必要はありません。逆に、スコアを開くときに外観を変更する必要がない場合は、【**使用しない**】をクリックして、すべてのオプションを無効にします。

詳しくは、『リファレンス』の 「8.10 旧バージョンからファイルを開く」を参照してください。

自動変更

旧バージョンの Sibelius で作成されたスコアを初めて Sibelius 5 で開くと、以下のような自動変更が行われます。



既存のスコアのアップグレード

- まだ存在しない場合は、さまざまなテキストスタイルが作成されます（単純テキスト、譜表上の歌詞、歌詞（コーラス）、拍子記号（1つの譜表のみ）、リピート（D.C./D.S./To Coda）、ブロック歌詞、タイムコード、ヒットポイント、スコアの経過時間、運指テキストスタイルなど）。
- まだ存在しない場合は、スコア内のさまざまなラインスタイルが作成されます（すべての *rit./accel.* ラインを含む）。
- スコアが Sibelius 2 以前のバージョンで作成された場合は、コーダとセーニョの記号は Sibelius 5 で開いたときに大譜表シンボルに変換され、リピート再生が適切に行われます。これは、各大譜表に複数の行の大譜表オブジェクトが表示される場合のみ、スコアの外観に影響します（[ハウススタイル] ▶ [大譜表オブジェクトの位置] で設定）。
- 譜表タイプの変更、移調の変更、楽器を変更して再生音源を指定するテキスト（たとえば、「To Flute」など）が変換されます（以下の既存のスコアの楽器変更を参照）。

既存のスコアの楽器変更

楽器変更は Sibelius 5 の新しい機能です。既存の譜表タイプの変更と移調の変更機能が合体されています。この機能を使用して、譜表に使用される楽器をスコアの途中で変更できます。以降の大譜表の再生音、移調、譜表タイプ、楽器名などが適切に変更されます。

譜表タイプの変更と移調の変更が単に楽器変更の個々の要素を作成する方法であったので、新しいスコアではもう譜表タイプや移調の変更を作成できません。既存のスコアを開くと、それらは楽器変更に変換されます。

さらに、譜表の再生音を変更するための古い機構は Sibelius 5 の楽器変更置き換えられ、「テクニク」のような譜表テキストスタイルを使用し、切り替えたい音の楽器名を入力して変更できるようになりました。そのため、たとえば、譜表上の「フルート」はもう再生の楽器音を変更しません。ただし、譜表の上にテキストを入力して、他の奏法（ミュート音やピッツィカートなど）を再生することはできます。

既存のスコアで、以下のような譜表タイプの変更、移調の変更、再生音の変更が変換されます。

- 譜表タイプの変更、移調の変更、再生音の変更は、それぞれ別個の楽器変更オブジェクトに変換されます。ただし、それらがスコア内のまったく同じリズムの位置にある場合は、1つの楽器変更で統合されます。
- 各譜表は左から右に読まれ、各変更の効果が蓄積されます。Clarinet in B \flat 譜表に、まず E \flat への移調変更があり、次に「Alto saxophone」のテキスト変更がある場合は、次のような2つの楽器変更が存在します。まず、移調変更が行われ、次に、再生変更が行われると同時に、最初の楽器変更の移調変更も含まれます（これは、スコアを Sibelius 5 で開いた後、右端の楽器変更を除く他のすべてを削除しても安全であることを意味します）。
- 変換された楽器変更ごとに、スコア内で新しい楽器定義が作成されます。それらは基本楽器とともに、[ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] の [すべての楽器] アンサンブル内にリストされます。そのため、上記の例では、木管楽器ファミリーの Clarinet in B \flat (移調 E \flat 3) および Alto saxophone (移調 E \flat 3) に2つの新しい楽器がリストされます。

スコアを Sibelius 5 で開いた後、標準の楽器変更で自動的に作成された楽器を希望の楽器に変更できます。詳しくは、『リファレンス』の ☐ 「2.14 楽器」を参照してください。

スコア内で実際に使用される譜表タイプの変更のみが楽器変更に変換されますのでご注意ください。そのため、自身のギタータブ、打楽器などの譜表タイプを定義し、それらを引き続き Sibelius 5 で使用したい場合は、Sibelius 5 でスコアを開く前に、それらがスコア内で使用されていることを確認してください。各譜表タイプは [ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] に表示されるので、さらに編集できます。

インストール

既存のスコアの再生

Sibelius 5 の再生機能は大幅に改良されました。それについては、このガイドで後述します。しかし、Sibelius 5 では、スコアが Sibelius 4 以前のバージョンのように再生されないことがあります。たとえば、次のようになります。

- 以前再生に使用された Kontakt Silver は、Sibelius 5 ではもう使用されません。Kontakt Silver より多くの音源が含まれる新しい Sibelius Sounds Essentials ライブラリに置き換えられました。
- サウンドセットのない MIDI デバイスを使用しており、ミキサーで各譜表の MIDI チャンネルとプログラム番号を手動で設定して正しく再生していた場合は、Sibelius 5 で再び設定する必要があります。
- 高度な再生エフェクトを適用するために MIDI メッセージを使用していた場合は、Sibelius 5 で同じエフェクトが生まれないことがありますのでご注意ください。特に、違うデバイスでスコアが再生されるようになった場合（たとえば、旧バージョンで使用した再生デバイスが使用不可になった場合）に、この問題が起きます。
- 旧バージョンでピッチのない打楽器譜表タイプを独自に定義した場合は、Sibelius 5 では自動的に正しく再生されません。[ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] ダイアログを使用して譜表タイプを更新し、正しく再生させる必要があります。詳しくは、『リファレンス』の ☞ 「2.21 パーカッション」および「7.12 楽器の編集」を参照してください。

既存のスコアを Sibelius 5 用に変換する前に、必ずこのガイドに目を通し、Sibelius 5 の再生機能の変更について理解しておいてください。

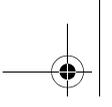
ハウススタイルのインポート

[スコアのアップデート] ダイアログを使用してスコアを更新せず、後でさまざまな新機能を有効にしたい場合は、[ハウススタイル] ▶ [ハウススタイルのインポート] を使用して、用意されているハウススタイルのいずれかをインポートできます。

既存のスコアに新しいハウススタイルをインポートした後、再生がやや異なり、ラインや符頭などの編集要素も異なる場合があります。特に、スコアが Sibelius 1.x で作成された場合にこの問題が起きます。以下を念頭に置いておいてください。

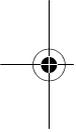
- [再生] ▶ [辞書] ダイアログへ追加された、たとえば、「ソロ」や「ミュート」などの新しい語が原因で、スコアの再生がやや異なる場合があります。Sibelius 5 ではそれらは Sibelius 1.x とは異なるエフェクトを持ちます。
- 標準設定では、音符は Sibelius 1.x よりも Sibelius 5 のほうがやや長めに再生されます。通常はよりレガートで再生されるために音が改善されますが、以前のほうを好む場合は、スラーのない音符の音価を、[再生] ▶ [パフォーマンス] ダイアログで変更できます。
- Sibelius 1.x よりも多くの新しい符頭タイプが Sibelius 5 では定義されており、標準設定のハウススタイルをインポートすると、これらはすべてスコア内で使用可能な符頭のリストに追加されます。しかし、そのリストの順序と番号は『リファレンス』内で示されているものとは異なります。

Sibelius 5 で既存のスコアの作業中に予想外の結果に遭遇した場合は、www.sibelius.com/helpcenter のヘルプセンターで詳細をお確かめください。



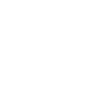
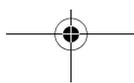
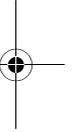
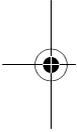
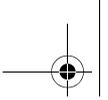
新機能

新機能





新機能



再生

Sibelius 5 の再生機能に多くの改良が加えられました。150 を超える音源を持つ新しい内蔵のサウンドライブラリである Sibelius Sounds Essentials により、スコアはかつてないほどすばらしい音質で再生されます。また、直接 Sibelius 内で、他の任意の VST や Audio Unit 対応のバーチャルインストゥルメントとエフェクトを使用し、刷新されたミキサーで再生を制御できます。

さらに、[再生] ▶ [辞書] ダイアログが刷新・拡張され、スコアの再生がさらに制御しやすくなりました。また、記述や選択方法がまったく新しい SoundWorld と呼ばれる音源も追加され、Sibelius 5 の再生機能は劇的な進歩を遂げました。

チュートリアルビデオ

Sibelius の再生の概要をご覧になりたい場合は、[ヘルプ] ▶ [チュートリアルビデオ] を選択し、[12 Playback] をクリックしてください。

Sibelius Sounds Essentials と Kontakt Player 2 の基本的な使い方については、[14 Sibelius Sounds and Kontakt Player 2] チュートリアルビデオを参照してください。

Sibelius Sounds Essentials

Sibelius には General MIDI サウンドを完全収録した高品質のサウンドライブラリである Sibelius Sounds Essentials が付随しています。このライブラリには、Sibelius Sounds Rock & Pop Collection、受賞に輝く Garritan Personal Orchestra、Garritan Marching Band、Garritan Jazz & Big Band、Tapsoace Virtual Drumline などから厳選された楽器が含まれています。Sibelius Sounds Essentials は、どんなジャンルの音楽にも柔軟に対応できる最良のサウンドコレクションになるでしょう。

詳しくは、『リファレンス』の  「4.4 Sibelius Sounds Essentials」を参照してください。

Sibelius Sounds Essentials に含まれている Garritan Personal Orchestra、Garritan Marching Band、Garritan Jazz & Big Band、Tapspace Virtual Drumline 2、Sibelius Rock & Pop Collection などから抜粋された音源をお好きな場合は、これらの正規版を直接 Sibelius が販売店でお求めいただけます。詳しくは、[ヘルプ] ▶ [Sibelius Sounds] を参照してください。

Kontakt Player 2

現在 Sibelius には、Native Instruments が販売するサンプルプレイヤーの機能強化版である Kontakt Player 2 が含まれています。このプレイヤーは Sibelius 4 と Sibelius 3 に付随する旧バージョンの Kontakt Player に取って代わります。この新しいバージョンは Sibelius Sounds Essentials や Sibelius Sounds に含まれる音源、Garritan、Tapspace および他社によって販売される音源など他の多くのサンプルライブラリの音源を再生します。

Kontakt Player 2 に最大 16 個の音源を同時にロードし、Kontakt Player 2 の複数のインスタンスを同時に使用できます。そのため、コンピュータが対処できる限り、任意の数の音源を使用できます。

また、Kontakt Player 2 はそれほどコンピュータの電源を使用しないため、全般的にプレイヤー内のすべてのスロットにリバーブ、コンプレッション、イコライズ (EQ)、フィルター、ディレイなどの多くの内蔵のエフェクトを適用できます。

Kontakt Player 2 の使い方について詳しくは、『リファレンス』の  「4.4 Sibelius Sounds Essentials」を参照してください。

新機能

その他の Sibelius Sounds 製品

Kontakt Gold (Sibelius Sounds Gold と名前が変わりました)、Garritan Personal Orchestra Sibelius Edition、Sibelius Rock & Pop Collection など、他の Sibelius Sounds 製品をご購入いただいた場合は、それらを Sibelius 5 と併用できるように、製品の無料アップデートをダウンロードできます。アップデートを入手する場合は、[ヘルプ] ▶ [ヘルプセンター] を選択し、オンラインのヘルプセンターのリンクに従ってください。

再生デバイス

Sibelius では、現在次に示すさまざまなハードウェアやソフトウェアデバイスを使用できます。

- サウンドモジュールやサウンド搭載のキーボードなどの外部 MIDI ハードウェア
- サウンドカードに内蔵のシンセサイザなどの内部 MIDI ハードウェア
- 付属の Kontakt Player 2 を含む、VST や Audio Unit 技術を使用するバーチャルインストゥルメント

以上のようなデバイスを再生設定でさまざまに組み合わせて使用できます。この一連の再生デバイス設定により、Sibelius が使用できるデバイスが判断され、デバイスの再生方法が決まります。設定できる再生設定の数に制限はありません。それぞれの設定で異なるデバイスを使用したり、再生設定を随時切り替えることも可能です。

刷新された [再生] ▶ [再生デバイス] ダイアログで再生設定を作成、編集、変更できます。詳しくは、『リファレンス』の [4.11 再生デバイス] を参照してください。

バーチャルインストゥルメントとエフェクトの概要については、『リファレンス』の [4.13 初心者のためのバーチャルインストゥルメント] を参照してください。

ミキサー

ミキサーは簡潔な縦型のレイアウトに完全にデザインが変わり、機能も増えました。バーチャルインストゥルメントとエフェクト用の特別なフェーダーがあり、マスターボリュームコントロールで楽器ファミリー（金管、弦など）全体のボリュームとパンを一度に調節できます。また、M-Audio キーボードをお持ちの場合は、その専用のフェーダーとトランスポートボタンを使用して、Sibelius の再生を制御できます。

現在ミキサーは以下の 5 種類のストリップを表示し、それぞれが種類の異なる情報を示します。

- スコアの各譜表には譜表ストリップがあり、譜表のボリューム、パン、ソロ/ミュート、初期の音源、再生デバイスなどを変更できます。
- 個々の譜表ストリップの代わりにグループストリップを示すことにより、上下の空間を節約できます。グループストリップにより、同じファミリー（木管、金管、弦など）の全楽器の相対的ボリュームとパンと、ファミリー全体のソロとミュートを 1 回のクリックで調節できます。
- スコアを再生するために使用される各バーチャルインストゥルメント（たとえば、内蔵の Sibelius Sounds Essentials ライブラリが使用する Kontakt Player 2 など）には、それ専用のバーチャルインストゥルメントストリップがあり、そのバーチャルインストゥルメント特有の設定を変更するためのウィンドウを表示/非表示できます。また、その出力に現在の再生設定内の任意のエフェクトを適用できます。



再生

- Sibelius 5には4つのエフェクトバスがあり、1つか複数の効果（リバース、コーラス、ディレイ、フランジなど）をロードできます。この4つのバスごとに、専用のエフェクトバスストリップがあり、各エフェクトに合わせて設定するためのエフェクトのウィンドウを表示/非表示できます。
- 最終的に、マスタボリュームストリップにより、スコアを再生するために使用されるすべてのパーティキュラーメント全体のボリュームを調節できます。ただし、これはMIDIデバイスには影響しません。また、このストリップはマスターインサートエフェクトバス内にロードされる最大4つのエフェクトのインターフェイスを表示/非表示できます。

詳しくは、『リファレンス』の  「4.3 ミキサー」を参照してください。

改良されたオーディオファイル

コンピュータの速度がスコアを再生するほど早くなくても、問題のない完全なオーディオファイルをSibeliusで作成できます。コンピュータの速度が速い場合は、Sibelius 5はオーディオファイルを実タイムよりも早く作成します。

詳しくは、『リファレンス』の  「8.13 オーディオファイルのエクスポート」を参照してください。

再生辞書

正確にどのようにアーティキュレーション、ライン、トレモロ、シンボルなどを再生するかを指定できます。たとえば、アクセントの強さ、スタッカートとフェルマータの長さ、トレモロとアルペジオの速度、*sfz*や*fp*などの表現を変更できます。ヘアピンの場合、最後の音量を判断するために強弱記号が自動的に読まれ、保持する音符の音量は線に沿って徐々に変化します。

再生デバイスに、たとえば、マルカートのトランペット、スラー奏法の弦、ジャズのリフト、フォール、バズロールなどのサウンドサンプルがある場合は、Sibelius 5は自動的にその専用サウンドサンプルを使用します。キースイッチ、MIDIコントローラ値、ベロシティレイヤーなどを介して、Sibelius 5は、どのサンプルを使用するかを再生デバイスに指示します。また、これらの指示はMIDIファイルにもエクスポートされます。しかし、専門的な要素はすべて自動的に処理されるため、それを設定したり考えたりする必要はまったくありません。

最も標準的な音楽記号はすべてあらかじめ設定されていますが、Sibeliusの【再生】▶【辞書】ダイアログを使用して、正確に再生に反映されるように修正できます。このダイアログには6つのページがあり、それぞれ再生に影響を与える異なる項目に対応しています。

- 【譜表テキスト】：*ff*や*legato*など、1つの譜表にのみ適用される再生指示です。
- 【大譜表テキスト】：*Fast*、*Swing*、*Adagio*など、すべての楽器に適用される指示です。
- 【譜表ライン】：トリル、*8va*ライン、スラー、ヘアピンなどの1つの譜表に適用されるラインです。
- 【アーティキュレーション】：スタッカート、テヌート、同音トレモロ、バズロールなどです。
- 【符頭】：ハーモニクスや薄く表示される音符のように、符頭を使用して作成されるエフェクトに使用します。
- 【シンボル】：打楽器のスクープ、フォール、マレット、ビーターなどです。

詳しくは、『リファレンス』の  「4.8 再生辞書」を参照してください。

ヘアピンとトリル

ヘアピンの最後の音量は、強弱記号の指定がない場合は、ヘアピンの右端直後の発想記号テキストの強弱記号に基づくか、強弱記号の1レベルの差（たとえば、*mf*から*f*へ）で音量を増大/減少させることにより、自動的に決まります。

新機能

トリルは標準設定ではダイアトニックの音程、つまり、現在の調号に基づいた適切な半音または全音のいずれかで再生されます。

[プロパティ] の [再生] パネルの新しいオプションを使用して、個々のヘアピンとトリルの再生を調整できます。

詳しくは、『リファレンス』の ☐ 「4.2 スコアの解釈」および「5.14 プロパティ」を参照してください。

SoundWorld

SoundWorld は、音色に名前を付けて分類するために Sibelius Software が開発した新しい規格です。これは、MIDI キーボード、サウンドモジュール、およびサウンドライブラリがその音を指定するために使用するパッチナンバーや（暗号的な）名前の複雑なパッチワークを解決するものです。ユーザーは、代わりに標準化されたわかりやすい名前を使用して音を選択できます。名前は特定の再生デバイスとは独立しているため、Sibelius では、使用しているシステムにないデバイス用に作成されたスコアを再生できます。また、音が現在の再生設定では利用できない場合は、最適な代替音が自動的に検索され、その音が代わりに使用されます。さらに、楽器のテクニック（スラーやアクセントなど）を、音価またはボリュームを変更することで模倣するのではなく、特殊な音を使用して（使用可能な場合）再生できます。

SoundWorld では、**woodwind.flutes.flute**、**woodwind.flutes.piccolo.flutter-tongue**、**strings.violin.ensemble.pizzicato** などの、サウンド ID と呼ばれる構造化された名前を使用して、それぞれの音が参照されます。各サウンド ID は、通常は楽器ファミリで始まり、楽器名、そして時にはその楽器に特有の演奏テクニックが続きます。

Sibelius では、サウンド ID は音を指定した場所に表示されます。たとえば、次のようになります。

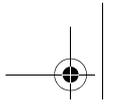
- 各楽器には推奨されるサウンド ID がありますが、これは [ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] で変更できます。
- ミキサーには、スコア内の各譜表のサウンド ID が示されます。
- パーカッション譜表の各符頭には、推奨されるサウンド ID が付いていますが、これは楽器を編集することで変更できます。
- 楽器のすべての演奏テクニックとアーティキュレーションはサウンド ID によって記述されますが、これは [再生] ▶ [辞書] で変更できます。

SoundWorld は、ツリー構造に編成されたサウンド ID のコレクションを意味します。Sibelius が使用する特定の SoundWorld は、Sibelius 標準 SoundWorld（または短縮して S3W）と呼ばれます。これは、主要なサウンドライブラリや MIDI デバイスで使用可能な音をほとんど網羅しています。さらに多くの音が利用可能になるにつれて、新しいサウンド ID が S3W に追加されていきます。

詳しくは、『リファレンス』の ☐ 「4.16 SoundWorld」を参照してください。

しかし、[ミキサー] ウィンドウと [ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] ダイアログ内でサウンド ID の代わりに特定の再生デバイス用のプログラム名を使用したい場合は、[ファイル] ▶ [環境設定] (Mac の場合は [Sibelius] メニュー内) を選択して、[再生] ページを開き、ウィンドウの右上の [ディスプレイ] オプションを [プログラム名] に設定します。

詳しくは、『リファレンス』の ☐ 「4.3 ミキサー」を参照してください。



再生



その他の再生の改良

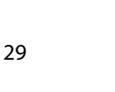
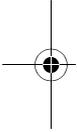
- [バックグラウンドで音符を再生] ボタンは [再生] ▶ [再生デバイス] ダイアログから削除されました。実行中のアプリケーションは、すべての MIDI デバイスとオーディオデバイスを制御します。
- 再生ラインは音符ごとまたは拍ごと（早いほう）に移動します。
- [再生] ▶ [代替デバイス] は必要がないため削除されました。
- [再生] ▶ [Garritan Personal Orchestra オプション] は必要がないため削除されました。
- リピート終了小節線の直前の音符からタイで結ばれた音符が正しく再生されるようになりました。

バーチャルインストゥルメントとエフェクトフォルダ (Windows のみ)

Sibelius は、1 つの指定フォルダ内でのみ VST 楽器とエフェクトを探すことができます。コンピュータにすでに VST 楽器やエフェクトがあった場合は、それらを Sibelius の指定するフォルダ内にコピーする必要があります。標準設定では、このフォルダは、**C:\Program Files\Sibelius Software\VSTPlugins** です。

[再生] ▶ [再生デバイス] を選択し、[オーディオエンジンのオプション] をクリックしてこのフォルダを変更できます。

新機能



新機能

アイデア

『リファレンス』の  「5.8 アイデア」

音楽制作においては、メロディー、リズム、伴奏、コード進行など使えそうな要素が頭に浮かんでくることはよくあります。アレンジャーや浄書家はテキスト記号、特定のコード記号あるいはダイアグラムなど多数の特定の表記群を使用 / 再使用する場合があります。

長さ、種類、楽器数に関係なく、こうした断片的な情報を集めたものを総称して「アイデア」と呼んでいます。キーを叩くだけで、アイデアをキャプチャし、後で保存することができます。アイデアをキャプチャしたら、編集や独自のキーワード（カノン、歌詞の、リフなど）で後で検索しやすいようにタグ付けしたり、あるいは色分けすることもできます。[アイデア] ウィンドウで、使用可能なアイデアすべてを参照、検索、再生することができます。アイデアはクリップボードから貼り付ける作業と同じように簡単に使用できます。Sibelius はアイデアを正しい調や音域に移調する機能も搭載しています。

アイデアはインポートやエクスポートすることで、他のユーザーと共有することができます。インターネット経由で共有することも可能です。教師または教育者の方には、生徒用の作曲ワークシートを作成するために、スコア内にアイデアを保存できるため便利です。

さらに、Sibelius には多数の楽器と音楽ジャンルが網羅されており、1500 以上のアイデアが含まれています。そのため、アイデアがひらめいてこない、あるいは自分の中のクリエイティブな発想を刺激するようなスタイリッシュなアイデアを求めている方も、ぴったりのアイデアがすぐに見つかることでしょう。

チュートリアルビデオ

アイデアの紹介については、[ヘルプ] ▶ [チュートリアルビデオ] ▶ [07 Ideas] を選択してください。

アイデアの構成要素

Sibelius で書き込み可能なものは実質的にはすべてアイデアといえます。アイデアとして選択しキャプチャできる楽譜の量に制限はありません。1つの譜表から音符を1つ選択したり、複数の譜表から複数の小節を選択することもできます。また、ライン、記号、テキストオブジェクト、さらにはインポートされたグラフィックなど、さまざまな種類のオブジェクトも音符ありまたは音符なしで選択し、アイデアとしてキャプチャできます。

アイデアには楽譜以外にもタグが含まれています。タグは各アイデアを説明するためにキーワードを使ってアイデアを分類するのに使用します。これにより、あとでアイデアを簡単に検索できます。これは、何千ものアイデアをふるいにかける場合に便利です。指定するタグ以外に、Sibelius は調号、拍子記号、テンポなどの情報を使って各アイデアを自動的にタグ付けします。アイデアは自分で選択したタグまたは Sibelius により自動追加されたタグを使って検索できます。アイデアに特定の色を割り当てることもできます。

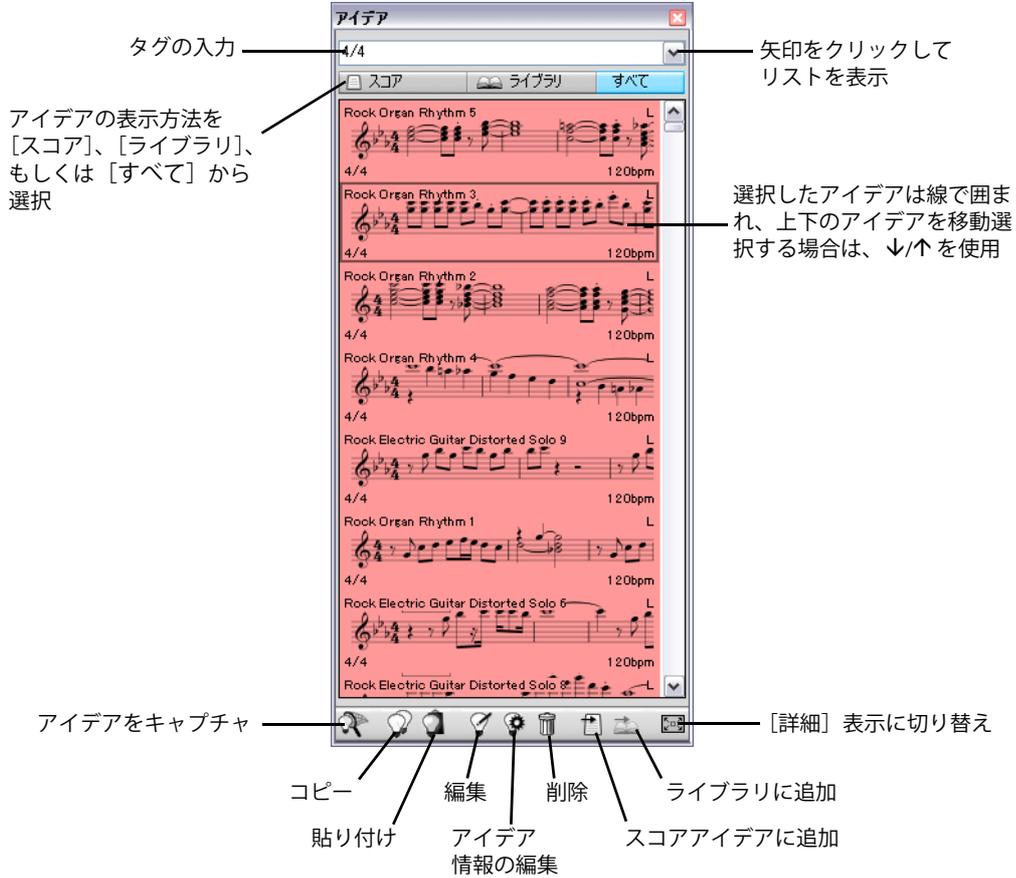
[アイデア] ウィンドウ

アイデアは主に [アイデア] ウィンドウで使用します。[アイデア] ウィンドウを表示 / 非表示するには、[ウィンドウ] ▶ [アイデア] (ショートカットは **Ctrl+Alt+I** または **⌘+I**) を選択するか、右に示したツールバーボタンをクリックします。



アイデア

[アイデア] ウィンドウには「簡易」と「詳細」の2つの表示画面があります。標準設定では、簡易表示で開き、次のように画面が表示されます。



新機能

[ライブラリ]、[スコア]、および [すべて] の間で切り替えてみてください。[ライブラリ] ボタンをオンにすると、あらかじめ用意されている 2000 以上ものアイデアにアクセスできます。リストを上下にスクロールしてみてください。

それぞれのアイデアには、楽譜やその他のオブジェクトの小さなプレビューが含まれています。2～3 の小節を持つ 1 つの譜表が普通ですが、それ以上の数の小節や楽器が含まれている場合もあります。重要なタグは表紙プレビューの周囲の四隅に表示されます。左上にはアイデアの名前、右上には「L」の文字 (アイデアが現在のスコアでなくライブラリにある場合)、左下にはアイデアの拍子記号、右下にはアイデアのテンポがそれぞれ表示されます。

ウィンドウの上部の矢印をクリックすると、最もよく使われるタグのリストが表示されます。リストから 1 つ選択すると、入力したタグに一致するアイデアだけがそのリストの下に表示されます。矢印を再度クリックすると、最初に選択したタグを使うアイデアで使用頻度が高いタグのリストが表示されます。この方法でタグを選択すると、アイデアのリストから適切なアイデアをすばやく絞り込むことができます。

アイデアの試聴

アイデアがどのように聴こえるかを試聴する場合は、アイデアをクリックしたままにします。アイデアはマウスを離すまで繰り返し再生されます。

新機能

アイデアのキャプチャ

アイデアを作成するには、スコア内の素材を選択し、[編集] ▶ [アイデアのキャプチャ] (ショートカットは **Shift-I**) を選択します。アイデアは以下のようなあらゆる選択範囲からキャプチャできます。

- 複数の小節および譜表のパスセージの選択。
- 音符、テキストオブジェクト、ラインなど1つの選択オブジェクト。
- 1拍目と3拍目などの複数の音符の選択 (**Ctrl+** クリック または **⌘**-クリック、あるいはフィルターごとに選択します)。
- 発想記号オブジェクトやヘアピンなど、音符以外の要素を複数選択 (**Ctrl+** クリック または **⌘**-クリック、あるいはフィルター機能を使って選択します)。

明らかにアイデアとしてキャプチャできないものもあります。たとえば、臨時記号、連符、アーティキュレーションなどは、添付先の音符をキャプチャしない限りキャプチャすることはできません。一般には、コピーおよび貼り付け可能な場合には、アイデアをしてキャプチャすることができます。

アイデアの検索

アイデアを検索する場合は、[アイデア] ウィンドウ最上部のボックス内にタグを入力し、リストからアイデアを選択します。

ボックスに入力していくごとに、下のメニューがドロップダウンされ、入力したものに一致するタグが表示されます (たとえば、「d」と入力すると「clarinet」、「closed」、「classical」などが表示され、「d」の後に「a」をさらに入力すると「closed」はリストに表示されなくなります)。このまま入力し続けても、または矢印キーやマウスを使ってリストからタグを1つ選択することもできます。タグを選択するか、**スペースキー**を押して1つのタグを入力し終わったら、ウィンドウの主要部分のアイデアリストがアップデートされます。

次に別のタグを入力できます。2番目のタグを追加すると、元のタグと新しいタグの両方に一致するタグのみがリストに表示されます。以前同様に、ボックスに入力を開始すると、メニューがドロップダウンされ、これまで入力した文字に一致するタグが表示されます。

別のタグを入力するごとに、ウィンドウの主要部分に表示されるアイデアはそれに従って選択肢が絞り込まれていき、ボックスに入力したすべてのタグに一致するアイデアのみが表示されます。この次に、リストから目的のアイデアをクリックして選択します。

アイデアは関連順に降順で [アイデア] ウィンドウの主要部分にリストされます。入力したタグがアイデアの [名前] に含まれている場合は関連性が非常に高く、[タグ] の全体リストに含まれている場合は関連性が高く、タグが Sibelius により自動作成されたタグに含まれている場合は関連性は低いこととなります。

アイデアの貼り付け

アイデアは貼り付ける前に、クリップボードにコピーする必要があります。この操作を行うには、[アイデア] ウィンドウからアイデアを選択し、**Ctrl+C** または **⌘C** を入力するか、ウィンドウの一番下の [コピー] ボタンをクリックするか、あるいは右クリック (Windows) または **Control+** クリック (Mac) して、コンテキストメニューから [コピー] を選択します。

アイデアをスコアに貼り付ける作業は他の種類の貼り付け作業と同じ方法で行います。アイデアを表示したい場所をスコア内で選択し、[編集] ▶ [貼り付け] (ショートカットは **Ctrl+V** または **⌘V**) を選択するか、何も選択されていないことを確認してから [編集] ▶ [貼り付け] を選択し、アイデアを貼り付けたいスコアをクリックします。また、[アイデア] ウィンドウの一番下にある [貼り付け] ボタンをクリックしてもかまいません。

アイデア

通常の貼り付けとは異なり、アイデアを貼り付ける場合、Sibeliusは標準設定として特別な機能を搭載しています。つまり、Sibeliusでは貼り付け先のスコアで使用される主なキーに一致するようにアイデアを移調します。また、アイデアの貼り付け先で使用される楽器の演奏範囲に収まるようにオクターブごとに移調します。

スコア内でアイデアを使った場所を記録したり（または、教師として生徒がアイデアを使った場所を確認したい）場合は、[色付きハイライトの作成]をオンにします。このオプションは、[ファイル] ▶ [環境設定]（Macでは[Sibelius]メニュー内）の[ファイル]ページにもあります。これにより、貼り付け先のアイデアの背景にハイライトが作成されます。

Sibeliusのビルトインアイデア

Sibeliusには2,000以上のアイデアが収録されており、あらゆる年齢層の作曲者にひらめきをもたらし、できる限り広範なジャンルの音楽を基本レベルで紹介することを目標としています。

各アイデアには一意の名前（通常はジャンル名）、アイデアで使用する楽器名、番号が順番に付いています。一般に、番号が高いほど、アイデア内の音楽のレベルは複雑に設定されています。また、Sibeliusにあらかじめ用意されたアイデアはジャンルごとに色分けされています（以下のリストに表示）。

特定のジャンルからアイデアを検索するには、まず以下のタグのどれか1つを入力します。

- アフリカン（桃色）
- チルアウト（パステルグリーン）
- クラシック（ライムグリーン）
- コンサートバンド（明るい緑）
- カントリー（黄色）
- ダンス（グレー）
- 映画（ライトブルー）
- フォーク（オリーブ）
- ファンク（グレーピンク）
- ガレージ（ミスティブルー）
- グルービー（パステルピンク）
- ヒップホップ（パステルブルー）
- ジャズ（ミッドピンク）
- ラテン（オレンジ）
- マーチングバンド（青緑色）
- モダンクラシック（淡い緑色）
- モータウン（ベージュ）
- ポップ（明るい青）
- レゲエ（紫色）
- ロック（明るいピンク）

以下のようなタグを使うと一致をさらに絞り込むことができます。

- 楽器（ギター、ドラム、ピアノなど）
- テンポ（速い、遅い、モデラートなど）
- アイデアの種類（メロディ、伴奏、リズムなど）
- 複雑さ（単純、中程度、複雑など）
- ムード（楽しい、悲しい、内省的など）
- 特性（エキサイティング、生き生きとした、リラックスした、威厳のある、メジャー、マイナー、スイング、劇的な、ユーモアのある）

これらのカテゴリーからタグを入力すれば、目的に合ったアイデアがすぐに見つかることでしょう。

Sibeliusにあらかじめ用意されたアイデアを自分のスコアに使う場合に役立つその他のヒントは以下のとおりです。

- アイデアの長さは様々ですが、通常は2～8小節の間です。長いアイデアは作曲、スタイル、または演奏技術における特定のポイントを明示するのに適しており、短いアイデアは編曲、繰り返し、または自分の曲で使用する場合に適しています。
- 大半のアイデアは単一の楽器に対して使用されるようになっており（名前で指定するように）、対象の楽器またはそれに関係の深い楽器に貼り付けて使うと最も効果的です。ただし、アイデアはスコア内のどの譜表に貼り付けることもできます。Sibeliusはそのアイデアを移調し、楽器の音域を適宜合わせるようにするため、是非試してみてください。

新機能

- 各ジャンル内のアイデアはすべて一緒に使用できるように設計されていますが、必ずしも同じハーモニーの構造やコード進行を共有しているとは限りません。異なる楽器で同じ番号が付いたアイデア（**レゲエベース 1**と**レゲエキーボード 1**など）は一般に一緒に使用できます。
- Sibelius にあらかじめ用意されたアイデアは Sibelius Sounds Essentials の **[再生]** ▶ **[ライブプレイバック]** がオンの状態で再生することによって最良なサウンドが出せるように設計されていますが、別のデバイスを使っても再生できます。

アイデアの編集

楽譜とアイデアのタグの両方を編集できます。アイデアのタグを編集する場合は、**[アイデア]** ウィンドウから選択し、ウィンドウの最下部の **[アイデア情報の編集]** ボタンをクリックするか、右クリックでコンテキストメニューの **[アイデア情報の編集]** を選択します。

アイデア内の楽譜を編集する場合は、**[アイデア]** ウィンドウから選択し、ウィンドウの最下部の **[アイデアの編集]** ボタンをクリックするか、右クリックでコンテキストメニューの **[アイデアの編集]** を選択します。

新しいドキュメントウィンドウが別のスコアを開いたかのように表示されます。他のスコアと同じように編集できます。

アイデアの編集を終えたら、**[ファイル]** ▶ **[保存]**（ショートカットは **Ctrl+S** または **⌘S**）を選択して保存してから、**[ファイル]** ▶ **[閉じる]**（ショートカットは **Ctrl+W** または **⌘W**）を選択してウィンドウを閉じ、元のスコアに戻ります。

アイデアで保存されていない変更を破棄する場合は、**[ファイル]** ▶ **[閉じる]** を選択してから、変更の保存を確認するダイアログが表示されたら **[いいえ]** をクリックします。

アイデアの保存場所

アイデアは現在のスコアまたはライブラリに保存できます。アイデアがスコアに保存されている場合は、**[スコア]** ボタンがオンになっている状態で、対象のスコアが開いている場合に限り、アイデアを **[アイデア]** ウィンドウに表示できます。アイデアがライブラリに保存されている場合は、**[ライブラリ]** ボタンがオンになっている状態で、対象のスコアが開いている場合に限り、アイデアを **[アイデア]** ウィンドウに表示できます。

標準設定では、アイデアはキャプチャ時に現在のスコアに追加されます。つまり、**[アイデア]** ウィンドウの **[ライブラリに追加]** を選択してクリックしない限り、アイデアは対象のスコアに対してのみ使用できることとなります。すべてのアイデアをライブラリに直接追加したい場合は、**[ファイル]** ▶ **[環境設定]** ダイアログ（Mac では **[Sibelius]** メニュー）の **[アイデア]** ページの **[キャプチャしたアイデアをライブラリに追加]** をオンにします。

アイデアの共有

自分のアイデアを他のユーザーと共有したい場合は、次の 2 つの方法を使います。共有したいアイデアを特定のスコアに保存し、そのスコアを配布するか（生徒用にプロジェクトを設定する場合に便利な方法）、または選択したアイデアを他のユーザーのアイデアライブラリにインポート可能な **.ideas** ファイルとしてエクスポートします。

アイデアのインポート

アイデアをライブラリにインポートするには（別の Sibelius ユーザーから **.ideas** ファイルを受信した場合など）、**[アイデア]** ウィンドウの詳細表示に画面を切り替えて、**[インポート]** をクリックします。インポートする **.ideas** ファイルを選択するよう求められます。**[開く]** をクリックすると、簡単なダイアログが表示され、インポートするアイデアをライブラリまたは現在開いているスコアの 1 つに追加するかどうかを指定できます。

パノラマ

『リファレンス』の  「5.10 パノラマ」

パノラマはスコアの表示方法のひとつです。印刷されるようなページレイアウトで画面に表示させるのではなく、水平に広がる単一の大譜表でスコアを表示します。このような表示方法は、他社のプログラムでは「スクロールビュー」や「ギャラリービュー」と呼ばれることもあります。

パノラマを使用すると、ページレイアウトを気にしないで、楽譜の入力と編集に集中できます。パノラマでの音符入力は、標準の表示において各ページに複数の大譜表がある場合に特に便利です。パノラマではページ内での大譜表の改行がなく、スコアは水平にのみ移動します。そのため、今作業中の箇所を見失ってしまうようなことも少なくなります。

チュートリアルビデオ

アイデアの概要を参照したい場合は、[ヘルプ] ▶ [チュートリアルビデオ] を選択し、[09 Panorama, Focus on Staves and Properties] をクリックしてください。

パノラマへの切り替え

パノラマへ切り替えるには、[表示] ▶ [パノラマ] (ショートカットは **Shift + P**) を選択するか、右側に表示されるツールバーボタンをクリックします。パノラマでスコアを表示すると、操作が以下のように異なります。



- ナビゲーターが無効になります (1 ページしかないため)。
- [表示] ▶ [スクロールバー] がオンになります。
- [表示] ▶ [譜表名と小節番号] がオンになります。

パノラマをオフにするには、再び [表示] ▶ [パノラマ] を選択します。

パノラマ表示中にスクロールバーまたは [譜表名と小節番号] をオフにすると、パノラマ表示中のみオフになります。そして、次回パノラマ表示をしたときに再びその設定が反映されます。

パノラマ表示での移動

パノラマ表示の作業は標準の表示の作業とそれほど変わりません。ナビゲーションと同じショートカット (**Home**、**End**、**Page Up**、**Page Down** など) やズーム機能などを使用できます。表示倍率の [ページの高さに合わせる] を試してください。画面にすべての譜表が表示されるので非常に便利です。

楽譜の先頭をドラッグして画面の左側から離すと、譜表ごとに現在の音部記号と調号の注記が水色で表示されます。

パノラマでの入力と編集

パノラマ表示の入力と編集の操作は標準の表示の場合とほとんど同じです。ただし、ページがないため、パノラマではできない操作がいくつかあります。

- ページに対して位置揃えするテキスト ([タイトル] や [ヘッダー (2 ページ以降)]) は表示されません。
- [表示] ▶ [レイアウト記号] がオンの場合にはレイアウト記号が小節線の上部に置かれ、任意に大譜表の改行や改ページを作成できますが、その結果がわかりません。

新機能

- パノラマ表示の印刷はできません（無限の長さの用紙を処理できるプリンタがないからです）。
[ファイル] ▶ [印刷] を選択すると、標準の表示のスコアが印刷されます。
- 大譜表が1つしかないので、[レイアウト] ▶ [空の譜表を非表示] を使用して特定の大譜表の譜表を隠すことはできません。標準の表示では非表示である譜表が、パノラマでは表示されます。
- [編集] ▶ [ページに移動] および [作成] ▶ [その他] ▶ [ページ番号の変更] は無効になります。
- [レイアウト] ▶ [譜表の整列] は無効になります。
- [ファイル] ▶ [エクスポート] ▶ [グラフィック] を選択すると、特定の大譜表やページではなく [選択したグラフィック] のみがエクスポートされます。

パノラマでの音符間隔

パノラマ表示では、音符のスペースに固定調整値が適用されます。言い換えると、[ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー内) の [ファイル] ページのオプションで指定された音符のスペース設定が無視されます。楽譜の各大譜表をページの幅に合わせるために変動値を使用する必要がないからです。

ただし、手動で調節した音符間隔はパノラマでも表示されます。たとえば、コード記号の重なりを避けるために小節の幅を広げると、この調整は、パノラマの表示にも表示されます。また、パノラマで音符間隔を調整すると、ページ幅に合わせて楽譜の間隔が調整されるため、調整した間隔は標準の表示に戻したときに狭くなったり広くなったりします。

パノラマでの譜表間隔

パノラマ表示では、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [譜表] ページで定義されている大譜表の間隔に基づき、[ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー内) の [ファイル] ページのオプションで指定されている固定調整値とその間隔を掛けた値が使用されます。ページの高さが固定していないので、[ページが少なくとも全体の n % になったら譜表を揃える] の値は無視されます。その結果、パノラマの譜表は標準の表示のときよりも詰まって見ることがあります。詰まり過ぎている場合は、[環境設定] の値を変更してください。

しかし通常は、標準の表示に影響を与えずにパノラマの譜表の間隔を調整できます。この機能は譜表の上か下で音符やオブジェクトが重なるときに便利です。通常のやり方でドラッグするか矢印キーで移動してください。

パノラマの [譜表にフォーカス]

[表示] ▶ [譜表にフォーカス] を選択してスコアの2つの譜表のみを表示すると、他の譜表がないために標準の表示が不自然になります。同時に [表示] ▶ [パノラマ] をオンにすると、[譜表にフォーカス] の表示がより自然になります。

パノラマでスコアを開く

スコアを保存すると、パノラマがオンであったかどうか記憶され、再びスコアを開く際に必要に応じて自動的にオンになります。その代わりに常にパノラマにするか標準の表示にするかを、[ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー内) の [ファイル] ページで設定できます。

キュー

『リファレンス』の ☞ 「2.10 キュー」

パート譜のキュー作成が瞬時に実行できるようになりました。キューに表示したい楽譜をコピーして、**[編集] ▶ [キューとして貼り付け]** を選択するだけで、残りは Sibelius が処理します。

キューとして貼り付け

Sibelius 5 の新しい **[編集] ▶ [キューとして貼り付け]** 機能を使用すると、キューのパスセージを瞬時に作成できます。

- ダイナミックパートではなく、フルスコアで作業していることを確認します。ダイナミックパート内でも **[編集] ▶ [キューとして貼り付け]** を使用できますが、フルスコアで使ったほうが便利です。キューパスセージのもととなる譜表を、複数の楽器に同時に貼り付けることができます。
- キューとして使用したい音符を選択して、**[編集] ▶ [コピー]** (ショートカットは **Ctrl + C** または **⌘C**) によりクリップボードにコピーします。

- キューを置きたい1つまたは複数の譜表の小節休符か休符を選択し、**[編集] ▶ [キューとして貼り付け]** (ショートカットは **Ctrl+Shift+Alt+V** または **⌘⇧⌘V**) を選択します。複数の譜表を選択すると、キューは複数コピー機能により選択されたすべての譜表に貼り付けられます。

これでキューの完成です。キューのパスセージを貼り付けると、自動的に多くの作業が行われます。

- コピーされた音符は最初の未使用の声部に貼り付けられます。すべての音符と他のマークはキューサイズになります。
- キューはフルスコアでは隠され、パート譜では表示されます。フルスコアで表示するように設定することもできます。
- 複雑な移調は、自動的に修正されます (たとえば、F 管のホルンの譜表に A 管のクラリネットのキューを置くなど)。ユーザーの環境設定に従い、適切な音部記号やオクターブラインが追加され、キューが読みやすくなります。
- キューになる楽器の名前はキューの上にかかれます。
- キューの元の楽器と配置先の譜表との譜表タイプが一致しない場合 (譜表線の数など) は、キューの始まりと終わりの位置で適切な楽器の変更が行われます。
- 歌詞、強弱記号、スラー、ヘアピンなどの特殊なマークは、ユーザーの環境設定に従い、自動的に含められるか排除されます。
- キュー音符は再生されないように設定されています。
- フルスコアとパート譜の両方で、未使用の声部には小節休符が追加され、小節は正しく表示されます。必要に応じて、小節休符を追加しないように設定できます。

どの楽器をキューにするかは自動的に判断されません。ただし、後述するように、キューの配置場所は Sibelius により示唆されます。

キューの位置の提案プラグイン

演奏用のパート譜を準備する際に、奏者にとって最も役立つキューの位置を判断するのは簡単ではありません。一定数の小節休符の後にキューを置くこともあれば、一定の経過時間の後にキューを置くこともあります。**[プラグイン] ▶ [その他] ▶ [キューの位置の提案]** により、これが自動的に行われます。

新機能

キューのチェックプラグイン

パート譜にキューを配置した後でスコアの楽譜になんらかの変更を加えると、キューのエラーになる可能性があります。元の譜表へ変更が加えられても、キューのパスセージが自動的に更新されないからです。しかし、新しいプラグインが付随しており、このプラグインによりキューと元の楽譜が比較され、不一致の場合は警告が出されます。対象となるパスセージを選択し、**[プラグイン]** ▶ **[校正]** ▶ **[キューのチェック]** を選択してください。

キューとして貼り付け環境設定

[ファイル] ▶ **[環境設定]** (Mac では **[Sibelius]** メニュー内) の **[キューとして貼り付け]** ページには、**[編集]** ▶ **[キューとして貼り付け]** を選択したときに実行される様々なオプションがあります。

[キューの音高] オプションには、元の譜表と配置先の譜表の音域の問題を解決するための3つの選択肢があります。

- **[必要に応じて音部記号を変更]** を選択すると、元の譜表と配置先の音部記号が一致しない場合は、貼り付けられたキューの先頭に音部記号が追加されます。たとえば、チェロのキューがフルートの譜表に貼り付けられると、キューの先頭に低音部記号が作成され、その最後に高音部記号が復元されます。このような音部記号の変更はパート譜にのみ表示されることに留意してください。
- **[必要に応じてオクターブラインを追加]** を選択すると、譜表に合わせてキューを1オクターブか2オクターブ移行する必要がある場合は、貼り付けられたキューの上にオクターブライン (上下2オクターブ以内の *8va*、*15ma*、*8vb*、*15mb* のいずれか) が追加されます。
- **[無効]** を選択すると、キューはオクターブの移行や音部記号の変更なしに配置先の譜表に貼り付けられます。

[キュー内にコピー] オプションでは、貼り付けられるキュー内のスラー、アーティキュレーション、強弱記号、歌詞、テクニクテキストなどを含めるかどうかを選択できます。

パート譜でキュー音符のある小節には小節休符を置くのが一般的です。これにより、音符が演奏されず情報のみであることが奏者に明確に示されます。しかし、ジャズなどの音楽では、キューは小さな音符で書かれ、小節休符は追加されません。**[パーツのキュー内に小節休符を表示]** では、このような習慣に従うかどうかを選択できます。オン (標準設定) にすると、パート譜にはキュー音符のほか小節休符も追加されます。オフにすると、キュー音符のみが追加されます。

ジャズでは一般的ですが、キューの最後に「Play」の語を示し、奏者に演奏することを明確に指示することがあります。**[キューの最後に「Play」を書く]** をオンにするとこの操作が行われます (標準設定ではオフです)。オンにした場合は、**[パーツのキュー内に小節休符を表示]** をオフにするといでしょう。

ほとんどの音楽ではパート譜にのみキューが表示されます。**[フルスコア内でキューを非表示]** は標準設定ではオンになっています。しかし、たとえばミュージカルなどの音楽によっては、フルスコアにキューを示すほうが一般的な場合があります。その場合は、このオプションをオフにしてください。

ここオプションを変更しても、すでに貼り付けた既存のキューには適用されませんので注意してください。**[編集]** ▶ **[キューとして貼り付け]** の使用後に作成されるキューにのみ影響します。

空の譜表を非表示

譜表は、現在の表示が、譜表のオブジェクトを非表示にするように設定されていれば、**[レイアウト]** ▶ **[空の譜表を非表示]** で非表示にできるようになりました。つまり、ダイナミックパート譜に表示されるように設定されている非表示のキューパスセージがある場合、フルスコアで譜表を非表示にできます。

Delete キーを押しても、空の譜表は非表示になりません。譜表を非表示にしたければ、**[レイアウト]** ▶ **[空の譜表を非表示]** を明示的に選択する必要があります。

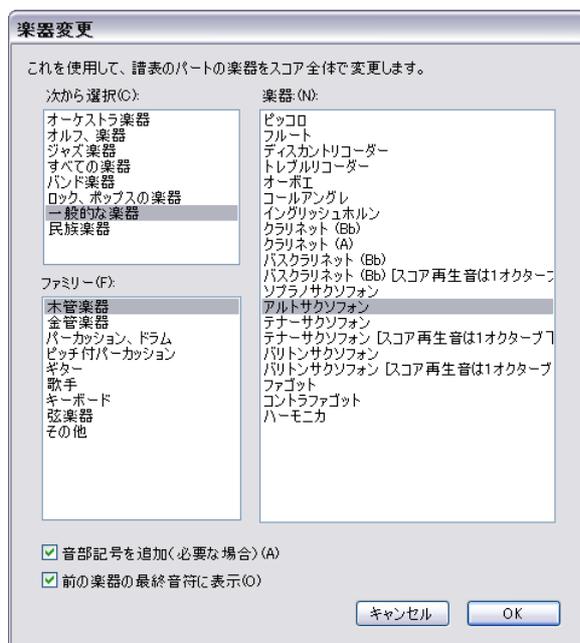
楽器

スコアでは、パーカッション、またはクラリネットにサクスを重ねるなど、同じ人物が複数の楽器を演奏することがよくあります。あるいは、違う楽器のために、パート全体を書き直さなければならないこともあります。Sibelius ではこの処理が自動的に行われるようになりました。Sibelius 5 では、楽譜のどこでも楽器の変更を作成するだけで、以降の楽器の名前、音部記号、サウンド、また必要に応じて移調や譜表タイプが変更されます。

また、あまり一般的ではない楽器を作成する場合は、独自にデザインし、名前、音部記号、音域などを自在に選択できます。グロッケンリンバから F# のトランペットまで、想像力を豊かに働かせてください。

楽器の変更

Sibelius では、**[作成] ▶ [その他] ▶ [楽器の変更]** を使用して、いつでも簡単に楽器を変更することができます。次のようなダイアログが表示されます。



変更する楽器をリストから選択します。次の2つの追加オプションを設定できます。

- **[音部記号を追加 (必要な場合)]** をオンにすると、新しい楽器の音部記号が元の楽器の音部記号と異なる場合、楽器の変更が行われる場所に音部記号の変更が作成されます。
- **[前の楽器の最終音符に表示]** をオンにすると、変更前の休符部分に「To (楽器名)」という警告が表示されます。

[OK] をクリックします。ダイアログを開く前に選択範囲が指定されていないと、マウスポインタが青になるので、スコア内をクリックして楽器を変更できます。それ以外の場合、Sibelius で選択箇所に自動的に楽器の変更が作成されます。

新機能

楽器を変更した場合、Sibelius では必ず次の変更が作成されます。

- 必要に応じて譜表の再生サウンドを変更します。
- 以降の譜表で楽器名を変更します（必要に応じて編集できます）。
- 再生が開始される譜表の最上部分に新しい楽器名を書き込みます（必要に応じて編集できます）。
- 必要に応じて、譜表の移調を変更します（たとえば B \flat から A クラリネットに変更するなど）。【音符】▶【スコアの移調】をオンにした場合は、該当する調号を変更します。
- 該当する場合は、譜表タイプを変更します（譜表ラインの数、タブ、記譜法など）。

以下の図は、楽器の変更がスコアにどのように表示されるかを示します（ここでは B \flat クラリネットからアルトサクソフーン (E \flat) に変更します。左の【表示】▶【非表示のオブジェクト】はオンで（楽器の変更がグレーの四角で表示されます）、【音符】▶【スコアの移調】はオフです（実音）。右の【音符】▶【スコアの移調】はオンです。



楽器の変更では移調の変更と譜表タイプの変更が一緒に行われるようになったため、Sibelius 5 で移調の変更と譜表タイプの変更を別々に作成することはできなくなりました。そのため、【作成】▶【その他】▶【移調の変更】および【作成】▶【その他】▶【譜表タイプの変更】は削除されました。

詳しくは、『リファレンス』の 「2.14 楽器」を参照してください。

楽器の編集

【ハウススタイル】▶【楽器の編集】を使用すると、楽器タイプを作成、編集、および削除できます。

詳しくは、『リファレンス』の 「7.12 楽器の編集」を参照してください。

楽器の作成

【レイアウト】▶【譜表と楽器】は、Sibelius 5 では【作成】▶【楽器】に変わりました。ただし、ショートカット (I) はそのままです。このダイアログには新しく【小さい譜表】チェックボックスが追加されました。このチェックボックスを使うと、譜表を小さいサイズで表示するかどうかを決定できます（このオプションは Sibelius 4 以前では【プロパティ】の【譜表】パネルに配置されていましたが、このパネルから削除されました）。

番号

小節番号、ページ番号、リハーサルマークでは、スコアの一部で使用される特別な番号形式がサポートされるようになりました。

小節番号

小節番号での作業は、大幅に簡略化されました。前のバージョンの Sibelius では、小節番号の表示頻度、位置、外観は 4 つのダイアログで設定しなければなりませんでした。表示頻度と位置は [ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [小節番号] で設定するようになりました。外観は [小節番号] テキストスタイルを編集して設定します。

自動小節番号は実際のオブジェクトに近い扱いとなり、他のオブジェクト同様、選択、移動、フィルター処理することが可能になりました。小節番号はすべて、[編集] ▶ [表示 / 非表示] ▶ [非表示] を選択して非表示にできます。

詳しくは、『リファレンス』の ☐ 「3.6 小節番号」を参照してください。

小節番号の変更

[作成] ▶ [その他] ▶ [小節番号の変更] が拡張され、新しい高度な各種オプションを使用できるようになりました。

- [1a、1b、1c…]、[1A、1B、1C…]、[a、b、c…]、[A、B、C…] など、さまざまな形式の小節番号を作成できるようになりました。
- 小節番号の前後にテキストを追加できるようになりました (例 [1 new]、[2 new]、[3 new] …、または [alt 1]、[alt 2]、[alt 3] …)。
- 新しい [小節番号なし (小節を数えない)] オプションを使用して、小節の番号が増えない小節番号の変更を作成することができます。これは改行をまたいで小節を分割する必要がある場合などに便利です。
- Sibelius では、マルチレストの最初の小節に小節番号の変更が含まれる場合に、マルチレスト内に一連の小節番号を正しく表示できるようになりました。また、マルチレスト内の一連の小節番号を中央揃えに設定すると、小節番号が常に譜表の下に置かれるようになりました。

小節番号を別の形式 (例 [1a、1b、1c…]) に変更する前にパッセージを選択すると、選択箇所の終わりに小節番号の形式が元の形式に「リセット」されます。

小節番号の新しい記譜ルール

小節番号の外観と位置に関するオプションは、次の新しいオプションも含めてすべて [ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [小節番号] ページで設定します。

- 新しい [リピートを数える] オプションを使用すると、小節番号でスコアのリピートを考慮し、さまざまな方法でこれを表示できます。
- 小節番号を最下位の譜表の下に表示するには、[特定の譜表] リストボックスの [最下位の譜表の下] オプションを設定します。
- 小節番号をユーザー定義の間隔 (8 小節ごと、16 小節ごとなど) で表示させることができるようになりました。
- 新しい [リハーサルマークで非表示] オプションを使用すると、リハーサルマークがある場所の小節線の小節番号を自動的に非表示にできます。
- 小節番号を中央に配置するように設定すると、小節番号の変更も中央に配置されます。

新機能

小節に移動

【編集】▶【小節に移動】が、開始部分の小節番号が1に戻る複数の歌曲、楽章、作品を持つスコアでさらに便利になりました。同じ小節番号に繰り返し戻っていると、選択した小節番号を持つ次の小節が選択されるようになるため、小節番号の変更が含まれるスコアの移動の際に役立ちます。

ページ番号

Sibelius 5 ではスコアのあらゆる部分でのページ番号の変更、形式の変更、ページ番号の非表示が可能です。たとえば、【作成】▶【その他】▶【ページ番号の変更】機能を使用すると、スコアの序文の i、ii、iii…や a、b、c…を1、2、3…の楽譜ページに変更できます。

ページ番号を表示にするか、非表示にするかを選択できるほか、スコアの任意のページから任意の形式でページ番号を付け直すこともできます。ページ番号の変更を作成すると、スコアの改ページも自動的に作成されます。

ページ番号は、他のオブジェクト同様、【編集】▶【表示 / 非表示】のオプションを使用して表示したり非表示にしたりできます。ページ番号の変更で最初のページ番号を表示 / 非表示にしても、最初のページ番号にしか表示 / 非表示は適用されません。それ以降のページ番号を表示 / 非表示にすると、変更を加えたすべてのページ番号が表示 / 非表示になります。

その他：

- 【編集】▶【ページに移動】を選択すると、任意の形式のページ番号に移動できます。
- 【複数のパートの外観】の【レイアウト】ページの新しいオプションを使用すると、フルスコアのページ番号の変更をダイナミックパートに表示するかどうかを選択できます。表示しない場合は、このダイアログで各パート譜の最初のページ番号を指定できます。
- 【ハウススタイル】▶【記譜ルール】の【ページ番号】ページは削除されました。すべてのページ番号オプションは、新しい【作成】▶【その他】▶【ページ番号の変更】機能を使用して設定します。

詳しくは、『リファレンス』の ☐ 「3.7 ページ番号」を参照してください。

リハーサルマーク

【ハウススタイル】▶【記譜ルール】の【リハーサルマーク】ページの新しい【接頭辞】および【接尾辞】を使用すると、リハーサルマークに、手書き風のボックスを描画するフォントなどを簡単に使用できます（新しい Reprise リハーサルフォントなど。詳しくは 43 ページの「Reprise およびその他のフォント」を参照してください）。

また、リハーサルマークの自動コンポーネントの前後に文字を追加することもできます。たとえば、**1A**、**2A**、**3A** などとするには、【作成】▶【リハーサルマーク】ダイアログで【新規の接頭辞 / 接尾辞】チェックボックスを使用します。

詳しくは、『リファレンス』の ☐ 「3.8 リハーサルマーク」を参照してください。

Reprise およびその他のフォント

Reprise

Reprise は優雅な雰囲気を持つ Sibelius のフォントコレクションに加わった最新フォントです。Reprise は、手書き風の字体を驚くほどリアルに再現する 9 個のフォントの 1 つです。この記譜シンボルは Inkpen2 で使用されている斜体のペンと異なり、固定幅のペンで描かれたように見えます。また、タイトルやその他の大きい文字に使用するためのゴム印フォントも 2 つ付いています。

新機能

テキストやリハーサルマークに手書きの線やボックスを追加するための特殊文字およびプラグイン、また Reprise をスコアに取り入れるためのハウススタイルも用意されています。Reprise は伝統的な手書きを美しく再現したフォントで、ジャズ、リードシート、ビッグバンド、ミュージカルなどに特に適したスタイルです。

詳しくは、『リファレンス』の 「7.7 ハウススタイル™」を参照してください。

Opus Note Names

新しく追加された Opus Note Names フォントは、音符の名前を符頭の中に次のように書き込みます。

これは楽器を習い始めたばかりの生徒に最適です。この新しいフォントを使用するには、音名を書き込むパッセージを選択するかスコア全体を選択し、[プラグイン] ▶ [その他] ▶ [音符名を符頭に追加] を選択します。

詳しくは、『リファレンス』の 「5.11 プラグイン」を参照してください。

機能分析

音楽学者や学生は Sibelius 5 で、新しい Opus Function Symbols フォントとテキストスタイルを利用して、機能分析を書き込めるようになりました。

T T₃ D₅⁷ T S₃ Sp⁷ S D (D₅⁷) Tp (D₅⁷) T₃p T₃⁶ Sp Sp D D₅⁷

詳しくは、『リファレンス』の 「3.5 数字付き低音とローマ数字」を参照してください。

その他の改良機能

- Opus Chords および同等のフォントには、新しく次の文字が含まれるようになりました。
 - 「alt.」 — オルタードコードに使用します (Unicode 00BD)。
 - スラッシュ符頭記号。コード記号にリズムスラッシュを入力する場合に使用します (Unicode 00BC)。
 - 積み重ねの + 文字と - 文字。テンションを含むコード記号で、シャープやフラットの代わりにして使用できます (Unicode 00F2-00FD)。
 - 6/9 記号を分数形式ではなく、上下に並べて表示します (Unicode 00DA)。
 - 2/4 の代わりに 4/2 と表記できます (Unicode 00D1)。
 - フォントのベースライン上に配置される ○、∅、△ の大きいバージョン (それぞれ Unicode 00B0、00B1、00B2)。
 - 小節リピート記号。コード記号に揃えて譜表の上に入力できます (Unicode 00A3)。
 これらの文字はすべて、入力しやすいようにコード記号の用語メニューに入っています。
- Opus Roman Chords のアラビア数字は読みやすいように、アルファベットを基準にサイズが大きくなりました。
- Opus Special および同等のフォントには、新しく次の文字が含まれるようになりました。
 - スラッシュ符頭 (符尾と揃えるために端が垂直) とダイヤ符頭 (リズム表記を作成する際の 2 分音符と全音符の代替符頭) の代替文字が含まれています。
 - 特殊な改ページの新しいレイアウト記号。
 - 左手カブラー用の新しい空白のアコーディオンカブラー記号。
- Opus Text および同等のフォントには、チルダ文字、等号の上下に点を付けて「約」を表す記号、およびページをめくるときに次のページの小節休符数を指定する場合の連休止小節 (波括弧の { と }) が追加されました。
- Opus Metronome および同等のフォントには括弧文字が追加されました。
- Helsinki の拍子記号の数字の整列が改良されました。
- Inkpen2 Script の下線テキストの下線の位置と太さが訂正されました。
- Inkpen2 Special の空白のコードダイアグラムが正しく表示されるようになりました。

新機能

プラグイン

プラグインの操作を元に戻すことができるようになったため、心配せずに実行できます。プラグインの操作を元に戻すには、プラグインの実行後、**[編集]** ▶ **[元に戻す]** を選択します。

Sibelius のプラグインが使用する Manuscript 言語も大幅に拡張、強化されました。そのため、プラグインがずっと強力になりました。詳しくは、マニュアル『Manuscript 言語の使い方』を参照してください。

Sibelius 5 には現在 20 以上の新しいプラグインがあります。新しいプラグインについて詳しくは、『リファレンス』の  「5.11 プラグイン」を参照してください。

コード記号

新しい **[プラグイン]** ▶ **[コード記号]** フォルダができ、既存のプラグイン（**コード記号の追加**、**コード記号とダイアグラムの音符化**、**コード記号の分数化**）を見つけやすくなりました。また、新しい **カポコード記号を追加** プラグインにより、特定のフレットの位置にカポを付けたギター用の譜表の上に適切なコード記号を書き込むことができるようになりました。

作曲ツール

3 つの新しいプラグインが **[プラグイン]** ▶ **[作曲ツール]** フォルダにあります。

- **ヒットポイント 譜表を追加** プラグインは、新しい 1 線譜をスコアに作成し、その譜表で、スコアのヒットポイントのリズムの位置に音符を作成します。そのため、小節内の各ヒットポイントの正確なリズムの位置がより簡単に視覚化されます。
- **エクスプロード (拡散)** プラグインは、1 つの譜表を複数の譜表に分散します。このプラグインは、既存の「エクスプロード」アレンジスタイルを補足し、各音符をどのように各楽器に分配するかをより精密に制御します。
- **選択部分を時間に合わせる** プラグインは、音楽のパスセージを対象に、その長さや終わるべき時間の位置を決め、必要に応じてテンポを変更します。この機能は、ビデオの作業時に効果を発揮します。
- **リダクション** プラグインは、複数の譜表を単一の譜表にリダクションします。新しい **エクスプロード (拡散)** プラグインと同じく、既存の「リダクション」アレンジスタイルを補足し、制御します。
- **スケールの変換** プラグインは、選択された音楽を対象に、ある音階（たとえば、長調）の各音を適切に移調して、別の音階（たとえば、5 音階）に変換します。

その他

4 つの新しいプラグインが **[プラグイン]** ▶ **[その他]** フォルダにあります。

- **音符名を符頭に追加** プラグインは、特別な Opus Note Names フォントを使用して、スコア内のすべての音符の符頭内に音名を書き入れます (43 ページの「Reprise およびその他のフォント」を参照)。
- **Groovy Music マークアップ** プラグインは、Sibelius のスコアを MIDI ファイルにエクスポートする前に特殊な方法でマークアップします。そのため、ファイルは教育用の主要ソフトウェアである Groovy Music の範囲内に正しくインポートされます。
- **ピアノ連弾レイアウト** プラグインは、2 台のピアノ（あるいは他の鍵盤楽器）のために書かれたスコアから通常の 4 手連弾スコアを新しく作成します。楽譜の左ページに低音部が、右ページに高音部が配置されます。
- **小節の分割** プラグインは、小節を 2 つに分割します。たとえば、小節の途中で大譜表を改行するか改ページする場合に便利です。

プラグイン

- **キューの位置の提案**プラグインは、小節の休符の数または最短の長さ（分と秒）の休符に基づいて適切なキューの位置を判断し、スコアにマークします（37ページの「キュー」を参照）。

再生

新しい【プラグイン】▶【再生】▶【**連続的なコントロールチェンジの追加**】プラグインは、さまざまなMIDIメッセージをスコアに追加し、Garritan Jazz & Big Bandなどの他社の多くのサンプルライブラリにある特殊なエフェクトや高度なエフェクトを自動化します。

校正

2つの新しいプラグインが【プラグイン】▶【**校正**】フォルダにあります。

- **キューのチェック**プラグインは、貼り付けられたキューがその元になった譜表の音符と一致しているかどうかを確認します（37ページの「キュー」を参照）。
- **歌詞のハイフンのチェック**プラグインは、スコア内の歌詞のハイフンが正しいかどうかを調べ、正しくない場合は自動的に修正します。

記譜の簡略化

新しい【プラグイン】▶【**記譜の簡略化**】フォルダができ、既存のプラグイン（**タイのついた音符と休符を結合**、**譜表間の音符の重複**、**重なっている音符を削除**、**休符の削除**、**ユニゾンの音符を削除**など）を見つけやすくなりました。さらに以下の3つの新しいプラグインが追加されました。

- **パフォーマンスの再記譜**プラグインは、フレキシタイムで入力された楽譜やMIDIファイルからインポートされた楽譜に使用できます。特に鍵盤楽譜（2段譜）で効力を発揮します。このプラグインは一般的な楽譜の簡略化を行い、音価、分割点、声部などを調整して、より見やすく記譜します。
- **他の譜表に移動**プラグインは、ピアノなどの鍵盤楽器の一方の譜表から他の譜表に音符を移動します。フレキシタイム入力またはMIDIインポートの後、間違った譜表に置かれた音符を修正する場合に便利です。
- **分割点の変更**プラグインは、選択された部分の分割点を調整し、指定した音高の上または下の音符を鍵盤楽器の他の譜表に移動します。

テキスト

新しい【プラグイン】▶【**テキスト**】▶【**Reprise Script に角括弧を追加**】プラグインは、手書きのジャズ楽譜に特有の括弧と線を追加するためにスコアの既存のテキストオブジェクト内に必要な文字を自動的に挿入します（43ページの「Reprise およびその他のフォント」を参照）。

連音符

新しい【プラグイン】▶【**連音符**】フォルダ内に以下の8つの新しいプラグインが含まれます。

- **連音符に音符を追加**プラグインは、連音符内で選択した音符と同数の音符をさらに含めるために連音符を拡張します。連音符の比率は変更され、全体の音価は保たれます。
- **連音符の比率の変更**プラグインは、全体の音価を変えずに、選択された連音符の比率を書き換えます（たとえば、3:2を6:4や6:8などにします）。
- **連音符を長くする**プラグインは、連音符の後続音符が選択されると、それを連音符の最後に含め、連音符を拡張します。
- **連音符にする**プラグインは、選択された音符を新しい連音符に変換します。その小節内では連音符の前または後に休符が追加されます。

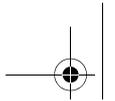
新機能

- **連音符から音符を削除**プラグインは、連音符内で選択された音符を連音符から削除します。連音符全体の音価を保持するために比率が変更されます。
- **連音符を短くする**プラグインは、連音符内で選択された音符を標準の音符に書き直し、連音符から外します。
- **連音符の分割と結合**プラグインは、1つの連音符を2つに分割するか、2つ以上の連音符をより長い1つの連音符に結合します。
- **連音符の環境設定**プラグインは、**連音符**フォルダにあるその他のプラグインのオプションを設定します。

更新されたその他のプラグイン

Sibelius 5 のその他の多くの既存のプラグインも更新されました。

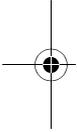
- **[プラグイン] ▶ [臨時記号]** フォルダ内の3つのプラグイン (**臨時記号の単純化**、**フラットをシャープに書き換え**、**シャープをフラットに書き換え**) が更新され、ライブプレイバックのデータ、連桁グループ、各プラグインが処理した音符の符頭タイプなどを破棄しなくなりました。
- **バッチ処理**フォルダ内のプラグインは、ファイル名のファイル拡張子の前にピリオドがあっても、常に正しい拡張子を持つファイル名を作成するようになりました。
- **[プラグイン] ▶ [バッチ処理] ▶ [統計の計算]** プラグイン (プロの浄書家たちに便利) は、1つのスコアまたはフォルダ内の全スコアの入力要素の統計を作成するようになりました。そして、結果を書き込んだスコアの代わりに、テキストファイルを作成します。
- **[プラグイン] ▶ [バッチ処理] ▶ [フォルダ内のスコアをグラフィックへ変換]** プラグインは、PNG形式のグラフィックをエクスポートできます。
- **[プラグイン] ▶ [コード記号] ▶ [コード記号とダイアグラムの音符化]** プラグインは、新しい伴奏楽器の位置を改善し、新しい [ピアノ (左手のみ)] 伴奏スタイルを追加します。このプラグインは **[音符] ▶ [スコアの移調]** がオンの場合に実行できます。
- **[プラグイン] ▶ [作曲ツール] ▶ [簡単な和音を追加]** プラグインは、作成する新しい楽器の位置を改善し、スコアの他の譜表の下に置きます。
- **[プラグイン] ▶ [作曲ツール] ▶ [音高マッピング]** プラグインは、異音同名の音符を適切に処理できるようになりました。
- **[プラグイン] ▶ [作曲ツール] ▶ [逆行]** プラグインは、3連符などの連音符が含まれている楽譜を逆行できるようになりました。
- **[プラグイン] ▶ [音符と休符] ▶ [スラッシュ符頭をパート譜へ追加]** プラグインは、連音符と楽器変更を処理できるようになりました。そして、ダイナミックパート譜の表示の際に、このプラグインは実行されなくなりました。
- **[プラグイン] ▶ [音符と休符] ▶ [タイのついた音符と休符を結合]** プラグインは、小節内のすべての休符を小節休符に結合するようになりました (可能な場合)。
- **[プラグイン] ▶ [音符と休符] ▶ [音価の2倍化]** および **[音価の半化]** プラグインは、3連符などの連音符を処理できるようになりました。
- **[プラグイン] ▶ [その他] ▶ [ハーブペダリングを追加]** プラグインに、使用しない弦をフラットまたはナチュラルの位置で示すかどうかのオプションが追加されました。そして、ペダルダイアグラム間の経過時間を判断するアルゴリズムが改善されました。
- **[プラグイン] ▶ [その他] ▶ [スケールとアルペジオ]** プラグインが改善され、このプラグインが作成するスコアは、表示される調号の代わりに、非表示の調号を作成できるようになりました。また、音階の間に複縦線を追加するようになりました。
- **[プラグイン] ▶ [校正] ▶ [校正]** プラグインは、新しい **[キューのチェック]** プラグインを実行できるようになりました。



プラグイン

- **[プラグイン] ▶ [テキスト] ▶ [強弱記号の変更]** プラグインは、Helsinki Text と Reprise Text の両方で強弱記号を変更できます。
- **[プラグイン] ▶ [テキスト] ▶ [歌詞の保存]** プラグインの名前は **[歌詞の保存]** のままです。
- **[プラグイン] ▶ [テキスト] ▶ [スマート引用符]** プラグインは、スマート引用符にするテキストオブジェクトが複数の行でも、改行を維持するようになりました。

新機能



新機能

ルック & フィール

Sibelius 4 からアップグレードした場合、Sibelius 5 の外観にはすぐに慣れることでしょう。いくつかの変更が加えられただけなので、すぐに作業を再開できるはずです。それ以前のバージョンの Sibelius からアップグレードした場合は、ソフトウェアでの作業を迅速、かつ快適にするための多くの強化機能が追加されました。

ツールバー

ツールバーのコントロールは次のようになっています。



Sibelius 4 以降に追加された新しいボタンは、ズームメニューの右に追加された [パンノラマ] だけです。

ツールバーの右端にある新しいボタン群は、Sibelius の次の 8 つのツールウィンドウの表示 / 非表示に使用します。



これらのボタンはすべて【ウィンドウ】メニューのオプションに対応し、キーボードショートカットも割り当てられています。

唯一の変更は、[Kontakt Player] というボタンがなくなったことです。この場所には、新しい [アイデア] ウィンドウを表示するボタンが配置されました。

メニュー

メニューアイテムの中には、名前が少し変わったものや、他のメニューに移動したものがあります。Sibelius 4 以降の最も重要な変更は、次のとおりです。

- [レイアウト] ▶ [譜表と楽器] が、[作成] ▶ [楽器] に移動しました。ただし、ショートカット (I) はそのままです。
- [レイアウト] ▶ [譜表にフォーカス] は [表示] ▶ [譜表にフォーカス] に移動しました。ただし、ショートカット (Ctrl+Alt+F または ⌘+F) に変更はありません。
- 入力デバイスオプションは、[再生] ▶ [再生と入力デバイス] の [入力デバイス] ページから [ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー内) の新しい [入力デバイス] メニューに移りました。
- [ウィンドウ] ▶ [Kontakt Player] は、Sibelius であらゆるバーチャルインストルメントの使用が可能になったため、削除されました。新しい Kontakt Player 2 ウィンドウ (およびその他のバーチャルインストルメント) は、デザインが一新された [ミキサー] ウィンドウから表示できます。

以前のバージョンの Sibelius からのメニュー変更なども含めた詳細は、72 ページの「付録 B: メニューの変更」を参照してください。

キーボードショートカット

今回のアップグレードには新しいキーボードショートカットがいくつか追加されましたが、Sibelius 4 からのキーボードショートカットで変更があったものは 1 つだけです。Shift-P は [表示] ▶ [パノラマ] のショートカットになり、[再生] ▶ [パフォーマンス] のキーボードショートカットはなくなりました。

Sibelius 4 より以前のバージョンからアップグレードした場合は、キーボードショートカットにもう少し多くの変更があります。詳しくは、73 ページの「付録 C: キーボードショートカット」を参照してください。

音符の入力

Sibelius 5 で音符の入力に加えられた大幅な変更はありません。ただし、音部記号、拍子記号、調号を作成する前にパッセージを選択すると、選択したパッセージの最後で、元の音部記号、拍子記号、調号が自動的に復元される便利な新機能があります。これはパッセージの長さに関係なく行われるので、通常、これらのオブジェクトを作成する前に小節の空白部分をクリックすると（1 小節のパッセージが選択され）、小節の最後に元のオブジェクトが自動的に復元されることになります。1 小節、またはそれよりも短い部分を選択した最後に元のオブジェクトに戻す機能を無効にするには、[ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー内) の [音符の入力] ページで [単一の小節を選択後に元のアイテムを復元] をオフにします。

Sibelius 2 または 3 からアップグレードした場合は、Sibelius 4 以降に導入された大きな変更にご注意ください。スペースキーを使用した休符の入力は使用できなくなりました。休符を入力する場合は、テンキーの 0 キーを使用します。この変更を受けて、次の点も変更されました。

- 以前のバージョンでは、1 つまたは複数の音符・休符を選択した状態でテンキーの 0 を押すと、音符と休符の選択が切り替わりました。
- 以前のバージョンでは、音符を選択した状態でスペースキーを押すと、選択した音符の後に音符入力カーソルが表示され、そこから続けて音符を入力できました。
- ノートパソコン（ラップトップ）を使用していてキーボードにテンキーがない場合は、[ファイル] ▶ [環境設定] の [メニューとショートカット] ページで [ノートブック型（ラップトップ）機能] 機能を設定することをお勧めします。この機能を設定すると、メインキーボードの数字キー行にテンキー機能が割り当てられます（Windows のみ）。

Sibelius 5 の音符入力ショートカットを Sibelius 3 や Sibelius 2 に近い動作に変える方法について詳しくは、<http://www.sibelius.com/helpcenter/en/a481> を参照してください。しかし、できるだけ新しい音符入力ショートカットを覚えていただくことをお勧めします。

Sibelius のキーボードショートカットのカスタマイズ方法について詳しくは、『リファレンス』の [5.9 メニューとショートカット] を参照してください。

ナビゲーター

Sibelius 3 以前からアップグレードした場合は、Sibelius 4 で [ナビゲーター] ウィンドウの動作が変化したことにご注意ください。

以前のバージョンで（数ページ以上の）長い距離をスクロールし続けるには、マウスをずっと動かさなければなりません。ドラッグする距離が長くなると、スクロールし続けるためにはマウスのボタンを押したまま机からマウスを持ち上げて、また置くという操作が必要でした。このため、ナビゲーターの使用は骨が折れる作業でした。

新機能

そのため、ナビゲーターの左右にスクロール用の「ゾーン」ができました。1、2ページを超えてスクロールしなければならない場合、マウスのボタンを押したままポインタをナビゲーターの端に動かすと、自動的にスクロールが始まります。Sibeliusがスクロールを開始したら、マウスのポインタの位置を固定しておく、スクロールが続けられます。マウスのポインタを同じ方向に進めると、スクロール速度が上がります。

ナビゲーターの新しい動作に戸惑いを覚える方は、Sibeliusの他のナビゲーション方法も試してみてください。たとえば、**Home** キーと **End** キーを押すと、画面、または1ページ単位でスコアが左右に移動します。**Ctrl+Home** を押すと、スコアの最初に、**Ctrl+End** を押すとスコアの最後に移動します。**Page Up** および **Page Down** キーを押すと、スコアが上下に移動します。**Ctrl+Page Up** を押すとページの最上部に、**Ctrl+Page Down** を押すとページの最下部に移動します。また、**[表示] ▶ [スクロールバー]** をオンにして、スコアの任意の場所にドラッグすることもできます。マウスにホイールボタンが付いている場合は、ホイールボタンで上下にスクロールできます。**Shift** キーを押すと左右にスクロールでき、**Ctrl** キーまたは **⌘** を押すと、拡大・縮小できます。

Mac での機能強化

Sibelius 5 はユニバーサルアプリケーションです。つまり、PowerPC と Intel プロセッサ搭載の両方の Mac OS X 上でフル稼働します。Sibelius 5 はまた、最新の Apple テクノロジーを活用し、今までで最も Mac フレンドリーなバージョンを実現しました。

- ダイアログ要素は、リストボックス、コンボボックス、ポップアップメニューに最新のヒューマンインタフェースツールボックスコントロールを取り入れるなど、外観が改良されました。
- カスタムダイアログ要素（例：**[作成] ▶ [シンボル]** のシンボルのリスト、**[作成] ▶ [音部記号]** の音部記号のリスト、**[レイアウト] ▶ [ドキュメントセットアップ]** のスコアプレビューなど）を Quartz を使用して描画できるようになり、外観が向上しました。
- すべてのダイアログで、**⌘** を **Esc** キーと同じように **[キャンセル]** ボタンと一緒に使用できるようになりました。
- テキストをスコアに入力している間に、メニューバーのメニュー名が点滅することがなくなりました。
- ダイアログコントロールおよび要素の外見上のさまざまな問題が修正されました。
- Sibelius では、クリアでスムーズな画面表示を実現するため、Quartz のみを使用されるようになりました。OpenGL のスムージングは提供されていません。

その他の改良機能

- Sibelius の読み込み中、進行中の動作について説明するメッセージがスプラッシュ画面に表示されます。
- **[ファイル] ▶ [環境設定]** (Mac では **[Sibelius]** メニュー内) の **[テクスチャー]** ページが変更されて、フルスコア、ダイナミックパート、およびアイデアの個別編集にデスクトップと用紙のテクスチャーを設定し、ダイアログでグラフィカルプレビューを表示できるようになりました。
- ダイアログの該当箇所、カスタム区切り線ではなく、標準のグループボックスが使用されるようになりました。
- **[キャンセル]** ボタンのないダイアログは、**[OK]** ボタンや **[閉じる]** ボタンを使用するのではなく、一貫して **[閉じる]** ボタンをクリックして確認するようになりました。
- **[ヘルプ] ▶ [Grove Music]** はプログラムから削除されました。

その他の改良機能と修正

Sibelius 5 のその他の新機能および改良機能を以下にまとめました。

詳しくは『リファレンス』の冊子（別途購入した場合）、または [ヘルプ] ▶ [Sibelius リファレンス]（ショートカットは **F1** または **⌘?**）を選択した場合に画面上に表示される『リファレンス』の該当箇所を参照してください。

臨時記号

2つの声部の音符が小節内に同時に存在し、1つの声部がキューサイズの場合、キューサイズの声部の音符の臨時記号が常に正しいサイズで表示されるようになりました。

アーティキュレーション

- 新しい [再生] ▶ [辞書] の [アーティキュレーション] ページで、各アーティキュレーションタイプの再生動作を定義できるようになりました。25 ページの「再生」を参照してください。
- 譜表をまたぐ連桁を使用したときに、アーティキュレーションが音符の反対側に正しく反転されるようになりました。
- **Alt+2** または **⌘2** などを使って声部間で音符を移動しても、アーティキュレーションが失われることがなくなりました。

小節と小節休符

新しい [編集] ▶ [小節の削除] 機能（ショートカットは **Ctrl+Backspace** または **⌘-Delete**）を使うと、選択した小節を削除できます。

連桁

[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [連桁と符尾] ページにある新しい [譜表をまたぐ連桁と音符間の連桁を調節する] オプションにより、2つの問題が修正されました。譜表をまたぐ連桁で、符尾が符頭の誤った側に表示されることがなくなりました。また、同じ譜表の極端な低音と極端な高音の間で連桁をドラッグしたときに、符尾が符頭の正しい側に描画されるようになりました。このオプションは新しいスコアでは標準設定でオンになっています。

ブレイク

- 新しい [レイアウト] ▶ [ブレイク] ▶ [特殊な改ページ] 機能（ショートカットは **Ctrl+Shift+Return** または **⌘⌘Return**）を使うと、簡単な操作だけで空白ページを任意の場所に挿入し、テキストやグラフィックを追加して、タイトルページや演奏に関する指示を作成することができます。
- 空白ページはパート譜にも使用できます。スコア、パート譜、またはその両方に、あらゆる空白ページやタイトルページを表示させることができます。
- 特殊な改ページを使用すると、それ以降のページにおいてページおよび譜表の余白を変更できます。以下のドキュメントセットアップを参照してください。
- レイアウト記号（改行、改ページ、特殊な改ページアイコンなど）をクリックして選択し、削除することができるようになりました。
- 新しい [作成] ▶ [タイトルページ] ダイアログを使用すると、スコアの最初の部分に1つまたは複数の空白ページを作成し、タイトル、作曲者などのテキストを自動的に追加することができます。

新機能

コード記号

コード記号の用語メニューが大幅に改訂され、次のような表記の異なるコード記号にも簡単にアクセスできるようになりました。

- ルート音名の上部に置かれる臨時記号ではなく、ルート音名と同じベースライン上に置かれる臨時記号
- テンション表記用のフラットやシャープ記号の代わりにして積み重ねられる +/-
- **maj/min**、**ma/mi**、Brandt-Roemer コード記号などに別の用語メニューができました。

音部記号

- **[作成]** ▶ **[音部記号]** を選択すると、**[音符]** ▶ **[スコアの移調]** のオンとオフを切り替えたときに変化する音部記号を作成できます。これは、スコアの一方の音部記号をコンサートピッチで記述し、もう一方を移調ピッチで記述する傾向がある低音金管楽器や木管楽器などに役立ちます。
- **パッセージ** を選択して音部記号を作成すると、Sibelius は自動的に元の音部記号に戻すための2つ目の音部記号を選択箇所の最後に作成します。

ドキュメントセットアップ

- **[レイアウト]** ▶ **[ドキュメントセットアップ]** の新しい **[先頭ページの後]** オプションを使用すると、ユーザーはスコアの最初のページ、およびそれ以降のすべてのページの上下の余白を別々に設定できます (ページの譜表の縦の範囲を示す境界ボックスなど)。これによって、以降のページのレイアウトに影響を与えずに、最初のページの上部のタイトルテキストや最初のページの下部の著作権テキストなどのスペースを空けておくことができます。
- 特殊な改ページを作成することによって、スコアのセクションのページ余白および譜表余白を変更することができます (上記のブレイクを参照)。

ダイナミックパート

- **[複数のパートの外観]** の **[ドキュメントセットアップ]** ページに **[余白]** ボタンができ、1つまたは複数のパート譜のページ余白および譜表余白を直接設定できるようになりました。そのため、同じダイアログの **[レイアウト]** ページの **[低い最初の大譜表 n スペース]** オプションは削除されました。
- **[複数のパートの外観]** の **[レイアウト]** ページの新しいオプションを使用すると、フルスコアの特殊な改ページをダイナミックパートに表示するかどうか、あるいはどのように表示するかを指定できます。
- **[パートレイアウトをコピー]** を選択すると、用紙サイズ、譜表サイズ、余白、譜表間や大譜表間の距離 (**[ハウスタイル]** ▶ **[記譜ルール]** の **[譜表]** ページの定義に従って)、ページ番号の変更、特殊な改ページがコピーされます。
- 縦置きに設定されているダイナミックパートは、スコアが横置きに設定されていても正しく縦に印刷されるようになりました (Windows のみ)。

サウンドセットの編集

[再生] ▶ **[サウンドセットの編集]** は、サウンドセットファイルの形式に大幅に変更が加えられたため、Sibelius から削除されました。独自のサウンドセットを作成する方法については、**[ヘルプ]** ▶ **[ヘルプセンター]** を選択し、オンラインのヘルプセンターを参照してください。

譜表タイプの編集

[ハウススタイル] ▶ [譜表タイプの編集] は Sibelius から削除されました。これは譜表タイプが、特定の楽器に関連して表示されるようになったからです。楽器で使用されている譜表タイプを編集するには、[ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] を使用してください。

シンボルの編集

[ハウススタイル] ▶ [シンボルの編集] で [削除] をクリックしても、既存のロットがクリアされるだけで、リストからシンボル全体が削除されることはなくなりました。

テキストスタイルの編集

- [テキストスタイルの編集] の [一般] ページの [添付先] 読み出しは、ダイアログのキャプションに、どのような種類のテキストスタイルを編集しているかが示された方が望ましいという理由で削除されました。今では必要に応じて [譜表のテキストスタイル]、[大譜表のテキストスタイル]、または [空白ページのテキストスタイル] が表示されます。
- [テキストスタイルの編集] の [垂直位置] ページは、譜表テキスト、大譜表テキスト、空白ページのテキストを区別するための別々のオプションに合わせて再編成されました。
- [テキストスタイルの編集] の [水平位置] と [垂直位置] の [先頭ページの余白だけに相対的] チェックボックスは新しいオプションです。これは、余白に「スナップ」したページ揃えテキストをスコアの最初のページの余白と同じ水平位置・垂直位置に描画するか、または（特殊な改ページの余白の変更で決定したとおりに）現在のページ余白に合わせて配置するかを指定します。
- [テキストスタイルの編集] の [一般] ページの [用語メニュー] ドロップダウンには、必要に応じてスクロールバーが表示されるようになったため、15 を超える用語メニューがある場合に、すべてのメニューから選択することができるようになりました。

オーディオのエキスポート

Sibelius では、オーディオファイルがリアルタイムではなく「オフライン」でエキスポートされるようになりました。シンプルなオーディオファイルのエキスポートはリアルタイムよりもかなり速くなります。複雑なオーディオファイルでは、リアルタイムよりも時間がかかる場合がありますが、途切れないスムーズなオーディオファイルができます。そのため、コンピュータがリアルタイムで再生できるよりも複雑なオーディオファイルでもエキスポートできます。

グラフィックファイルのエキスポート

- Sibelius では、[ファイル] ▶ [エキスポート] ▶ [グラフィック] から、グラフィックを PNG（ポータブルネットワーク グラフィックス）形式でエキスポートできるようになりました。
- Sibelius では、[ファイル] ▶ [エキスポート] ▶ [グラフィック] を選択して、Mac で Windows のビットマップグラフィック（BMP）をエキスポートできます。
- [ファイル] ▶ [エキスポート] ▶ [グラフィック] ダイアログのオプションは、指定した設定をセッション終了まで維持します。
- Sibelius では EMF グラフィックのエキスポートがサポートされなくなりました（Windows のみ）。

MIDI ファイルのエキスポート

- Sibelius では、現在のスコアの再生設定を調整しなくても、あらゆるサウンドセットを再生するように設計されている MIDI ファイルをエキスポートできるようになりました。たとえば、Kontakt Player 2 で Sibelius Sounds Essentials を使用していて（General MIDI 互換ではない）、標準メディアプレーヤーで再生するために MIDI ファイルをエキスポートしたい場合、[MIDI エクスポートのオプション] ダイアログで [General MIDI] サウンドセットを選択して、General MIDI 互換の MIDI ファイルをエキスポートするよう選択できます。逆に、サンプルライブラリを使用しており、MIDI ファ

新機能

イルをエクスポートしてシーケンサーで作業したい場合は、現在のサウンドセットを対象とする MIDI ファイルをエクスポートすると、既存のキースイッチ、MIDI コントローラなどはすべて MIDI ファイルにエクスポートされるため、シーケンサーで再度プログラミングする手間が省けます。

- Sibelius では、新しい **[MIDI エクスポートのオプション]** ダイアログの設定に従って、タイプ 0 とタイプ 1 の MIDI ファイルを両方エクスポートできるようになりました（これまではタイプ 1 しかエクスポートできませんでした）。
- エクスポートした MIDI ファイルの MIDI ティック解像度（PPQN — Pulse Per Quarter Note）を新しい **[MIDI エクスポートのオプション]** ダイアログで設定できるようになりました。

ファイル

- Sibelius 5 のスコアは以前のバージョンのスコアよりも大幅に小さくなりました（最大 50% 小さくなりました）。
- 初めてスコアを保存したとき、Sibelius は **[ファイル] ▶ [スコア情報]** の **[タイトル]** フィールドを基に、自動的にファイル名を提案します。
- Sibelius 5 では、**[ファイル] ▶ [エクスポート] ▶ [Sibelius 2, 3, 4 または Student]** メニューオプションを使用して、Sibelius 4、Sibelius 3（または Sibelius Student か G7）、および Sibelius 2 形式にスコアをエクスポートできます。
- 以前のバージョンの Sibelius で作成したスコアを開き、**[スコアのアップデート]** ダイアログから **[ハウススタイル]** ダイアログにアクセスすると、新しい **[非表示の音符と休符が符尾の方向と休符に影響しない]** オプションが表示されます。
- **[ファイル] ▶ [新規]** の **[楽器の追加]** ボタンは、譜面用紙から楽器の追加および削除ができることをはっきり示すため、**[楽器の変更]** に名称変更されました。
- **[ファイル] ▶ [新規]** の最後のページの **[タイトルページを作成]** オプションで、特殊な改ページを使用してタイトルページを作成できるようになりました（上記のブレイクを参照してください）。
- **[ファイル] ▶ [スコア情報]** の **[タイトル]** フィールドで、ダイアログを開いたときのフォーカスが正しく設定されるようになったため、編集コントロールをクリックしてアクティブにしなくても、直接ダイアログに入力できるようになりました（Mac のみ）。
- **[ファイル] ▶ [スコア情報]** の新しい **[楽器の変更]** フィールドには、フルスコア、または現在のパートで使用されたすべての楽器の変更が一覧表示されます。これは新しいテキストのワイルドカード、**¥\$InstrumentChanges¥** と **¥\$HeaderInstrumentChanges¥** に対応しているので、ダイナミックパートなどで便利です（そのため、**[パート名]** を「Reeds 1」に、**[楽器の変更]** を「Clarinet, Alto Sax」などに変更できます）。その他の新しい **[スコア情報]** フィールドには、**[献辞]**、**[アーティスト]**、**[作曲年]**、**[作曲者の日付]**、**[作品番号]**、**[楽譜作成者]** があります。
- 非常に大きいスコア（大きな用紙サイズに多くの譜表を持つ非常に小さな譜表）では、スコアの最後を表示できないことがありました。この問題は修正されました。
- 以前のバージョンでは **[ファイル] ▶ [スコアを最後に追加]** を選択すると Sibelius がクラッシュすることがありましたが、この操作の信頼性が高まりました。

フィルター

- 新しい **[編集] ▶ [フィルター] ▶ [小節番号]** クイックフィルターを使用すると、選択箇所すべての小節番号を選択できます（41 ページの「番号」を参照してください）。
- 新しい **[編集] ▶ [フィルター] ▶ [ページ番号の変更]** クイックフィルターを使用すると、選択箇所すべてのページ番号の変更を選択できます（41 ページの「番号」を参照してください）。

譜表にフォーカス

[レイアウト] ▶ [譜表にフォーカス] は [表示] ▶ [譜表にフォーカス] に移動しました。

ギタータブ

装飾音符サイズのギタータブ番号が、フルサイズのタブ番号に正しく揃って表示されるようになりました。

ヘルプ

[ヘルプ] ▶ [Sibelius リファレンス] を選択すると、Sibelius 4 で使用されていた Web ベースのシステムではなく、PDF バージョンの Sibelius リファレンスが表示されるようになりました。PDF バージョンの方が短時間で開き、読みやすさも優れています。

オブジェクトの非表示

[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [音符とトレモロ] ページに新しい [非表示の音符と休符が符尾の方向と休符に影響しない] オプションができました。このオプションをオンにすると、別の声部で符尾の方向、および休符の垂直位置を決定する際に、非表示の音符と休符が無視されます。

ハウススタイル

- ハウススタイルをスコアにインポートする場合、Sibelius はハウススタイルの新しいスタイルをインポート先の既存のスタイルとどのように結合するかについて、さらに知的な決断を下すようになりました。
 - ハウススタイルの必須スタイル（標準設定のテキストスタイル、標準設定の楽器、標準設定のシンボルなど削除できないもの）はすべて、インポート先のスコアの対応するスタイルに置き換えられます。
 - ハウススタイルのユーザー定義スタイルの中で、インポート先のスコアに既に存在するスタイルと外観が完全に一致するものはインポートされません（同一スタイルの不要な重複を防ぐため）。
 - ハウススタイルのユーザー定義スタイルの中で、インポート先のスコアに存在しない、または既存のスタイルに対応する（同じ名前を持つなど）が外観が異なるものは、インポート先スコアのスタイルに追加されます（既存のユーザー定義スタイルが一致しないスタイルで上書きされるのを防ぐため）。
- これらの変更は、スコア間での素材のコピーと貼り付けにも適用されます。以下の選択とメッセージを参照してください。
- また、1つのテキストスタイルや1つのシンボルを、1つのスコアから別のスコアにアイテムをコピー・貼り付けすることによってインポートすることが可能になりました。この方法を使うと、貼り付けたアイテムを表すために必要なスタイルだけがインポートされます。この方法を使うと、多くの異なるスコア、またはハウススタイルのアイテムを1つのマスターハウススタイルに効果的に「結合」することが可能です。
- ハウススタイルファイルから [譜表タイプ] をインポートするオプションは、[楽器の定義] をインポートするオプションに置き換えられました。詳しくは譜表タイプの編集と譜表を参照してください。

グラフィックのインポート

- [作成] ▶ [グラフィック] を使用してインポートした TIFF グラフィックは、特殊な改ページで作成された空白ページに配置できるようになりました。
- [作成] ▶ [グラフィック] を使ってインポートしたグラフィックは、キューサイズにすることができます。

新機能

- **【作成】 ▶ 【グラフィック】** を使ってインポートしたグラフィックは、小さい譜表に添付したときに正しい倍率で表示されるようになりました。

MIDI ファイルのインポート

【MIDI ファイルを開く】 ダイアログに、新しい **【空の譜表を非表示】** オプションができました。このオプションは標準設定でオンになっています。MIDI ファイルのインポート後のスコアにすべての譜表を表示したい場合は、このオプションをオフにしてください。

Sibelius のインストール

- Sibelius はネットワーク環境での展開を簡単にするために、標準の Windows インストーラ (MSI) インストーラパッケージを使用するようになりました (Windows のみ)。
- Sibelius では、Microsoft .NET Framework 2.0 がインストールされていることが必要になりました。インストール済みでない場合は、正しいバージョンをダウンロードするよう求めるメッセージが表示されます (Windows のみ)。

調号

パッセージを選択して調号を作成すると、Sibelius は自動的に元の調号に戻すための 2 つ目の調号を選択箇所の最後に作成します。

ライン

- **【プロパティ】** の **【ライン】** パネルの新しいコントロールを使用して、ヘアピンの開きをヘアピンごとの単位で編集できるようになりました。閉口部、開口部、小さい開口部、大きい開口部をすべて個別に編集できます。**【閉】** を 0 より大きい値に設定すると、現在の作曲家が時々使用する、端の開いたヘアピンが作成されます。
- ヘアピンでは、強弱の明記のすぐ後を調べるか、強弱の明記がないときは強弱記号を 1 レベル増減させて、再生時の最後の強弱を自動的に決定するようになりました。
- **space** キー、または **Shift-space** キーでヘアピンを伸縮させると、ヘアピンは次の小節の先頭で終了したときに譜表やページをまたぐことがないように、小節線のすぐ前の位置でスナップするようになりました。
- 改行や改ページの後で、ヘアピンの片一方が間違った方向を向くことはできなくなりました。
- **【ハウススタイル】 ▶ 【記譜ルール】** の **【ライン】** ページの **【次ページへ継続したときの大きい開口部 n スペース】** が正しく動作するようになりました。

歌詞

- すべての歌詞をスコアに入力する手間を省くため、新しい **【作成】 ▶ 【歌詞】 ▶ 【テキストファイルから】** 機能を使用すると、テキストファイルから歌詞を自動的に追加することができます。Sibelius はテキストが英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ラテン語の場合、テキストを正しい音節に分けてスコアに貼り付け、スラーでメリスマを作成します。
- クリップボードから歌詞を貼り付けると、貼り付けた歌詞に自動的にハイフンが付けられます。この新しいオプションは、**【ファイル】 ▶ 【環境設定】** (Mac では **【Sibelius】** メニュー内) の **【その他】** ページで制御します。
- 自分で歌詞を入力した場合、Sibelius は音節が正しく区切られているかをチェックします。46 ページの「プラグイン」を参照してください。
- 歌詞テキストスタイルはすべて、**【作成】 ▶ 【テキスト】 ▶ 【歌詞】** の 1 つのメニューから作成できます。

譜面用紙

- [低音部譜表]、[マリアッチバンド]、[オーケストラ、コンサート]、[オルフ、教室 1]、[オルフ、教室 2] など、いくつかの新しい譜面用紙が導入されました。
- Sibelius 5 で作成したスコアには、標準設定で次の新しいテキストスタイルが含まれています。
 - [囲み大譜表テキスト]：新しい大譜表テキストスタイル。すべてのパート譜に印刷する必要がある囲みに入った指示などに適しています。
 - [単純大譜表テキスト]：新しい大譜表テキストスタイル。すべてのパート譜に標準設定として印刷する必要がある一般的な指示などに適しています。
 - [囲みテキスト (空白ページ)]、[作曲者 (空白ページ)]、[献辞 (空白ページ)]、[単純テキスト (空白ページ)]、[単純テキスト、右 (空白ページ)]、[単純テキスト、中央 (空白ページ)]、[サブタイトル (空白ページ)]、および [タイトル (空白ページ)] テキストスタイル。改ページを使って作成した空白ページに使用します。
 - [楽器名 (キュー)]：[編集] ▶ [キューとして貼り付け] で、キューパッセージにラベルを付ける場合に使用する譜表テキストスタイル。
 - [楽器の変更]：[作成] ▶ [楽器の変更] で、新しい楽器の名前に使用する譜表テキストスタイル。
 - [機能シンボル]：機能分析用の新しい譜表テキスト。新しい Opus Function Symbols フォントを使用します。
 - [メートル法変換]：メートル法変換を書き込むための新しい大譜表テキスト。新しい Opus Metronome フォントを使用します。
- Sibelius 5 で作成した新しいスコアには、[タイトル(タイトルページ上)] および [作曲者(タイトルページ上)] テキストスタイルは含まれていません。これらは [作成] ▶ [テキスト] ▶ [空白ページのテキスト] サブメニューの新しいテキストスタイルで置き換えられました。この古いテキストスタイルは、Sibelius 3 または 4 で作成されたスコアには今後も表示されます。
- Sibelius 5 で作成した新しいスコアでは、ページに付いている繰り返しテキスト（ページ番号、ヘッダー、フッターなど）は、常にスコアの最初のページの余白に従って、縦または横に配置されます。スコアの余白に加えた変更をテキストオブジェクトの配置の際に考慮したい場合は、[テキストスタイルの編集] の [水平位置] および [垂直位置] タブの [先頭ページの余白だけに相対的] オプションをオフにします。詳しくは、上記のテキストスタイルの編集を参照してください。既存のスコアで新しい標準設定動作を作成したい場合は、Sibelius 5 に付属の標準ハウススタイルの 1 つをインポートするか、既存のテキストスタイルでこれらのオプションをオンにします。
- Sibelius 5 で作成した新しいスコアでは、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [音符とトレモロ] ページの [非表示の音符と休符が符尾の方向と休符に影響しない] オプションが標準設定でオンになっています。
- Sibelius 5 で作成した新しいスコアでは、[ハウススタイル] ▶ [記譜ルール] の [ライン] ページで [次ページへ継続したときの大きい開口部 n スペース] が [1.1] に設定されています。

マルチレスト

- ページに付いた大譜表テキスト（[ヘッダー (2 ページ目以降)] など）で、マルチレストが分割されることがなくなりました。以前のバージョンの Sibelius では、小節 1 以外の小節に添付されていたそのようなテキストアイテムの場合、テキストの添付先である小節でマルチレストの分割が起きていました。マルチレストが分割されることはなくなりましたが、そのテキストはパート譜に表示されなくなりました。マルチレストの分割を防ぎ、テキストが描画されるようにするには、必ずヘッダーテキストを小節 1 に添付するようにしてください。
- 小節線が特別な小節線である場合（複縦線など）にも、小節線的一方をドラッグすることで、マルチレストの幅を変更できるようになりました。

新機能

符頭

スコアに新しい符頭タイプが追加されました。

- リズムスラッシュ符頭（符頭 3 と 4）が改良され、符尾との位置揃えが良くなりました。
- 新しい大きなクロス符頭（符頭 26）は、ユニゾンのマーチングパーカッションに適しています。
- 新しいスラッシュ符頭（符頭 27 と 28）は、古いバージョンの符頭 3 と 4 と同じ外観ですが、再生できます。
- 新しいクロス符頭は、ダブルシャープをクロスに使用します（符頭 29）。
- 新しい「ping」符頭は、ピッチのないパーカッション楽器（符頭 30）に使用します。

これらの符頭の数、Sibelius が自動的に既存のスコアに追加したときに異なった仕上がりになることがあります。どの符頭がどのスコアに配置されているかを確認する場合は、**[ハウススタイル] ▶ [符頭の編集]** を使用してください。

音符の入力

- **[ファイル] ▶ [環境設定]** (Mac では **[Sibelius]** メニュー内) の **[音符の入力]** ページに、新しく **[単一の小節の選択後に元のアイテムを復元]** オプションができました。このオプションは標準設定でオンになっています。このオプションをオフにすると、選択箇所が 1 つの小節、またはそれより短い場合に、拍子記号、調号、音部記号、楽器の変更などが復元されなくなります。
- **[ファイル] ▶ [環境設定]** (Mac では **[Sibelius]** メニュー内) の **[音符の入力]** ページの **[編集中に音符を再生]** をオフにすると、マウス入力、アルファベット入力、またはステップタイム入力のいずれかで入力や編集を行っても、Sibelius は一切反応しなくなります。音符の再生は、フレキシタイム入力か再生の場合にのみ行われます。
- メインキーボードの数字キーで、和音に追加した音符の数が多すぎても、Sibelius がクラッシュすることはなくなりました。

MusicXML ファイルを開く

Sibelius 5 では、MusicXML ファイル変換の質が大幅に向上しました。

- **[MusicXML ファイルを開く]** ダイアログのデザインが一新されてオプションがわかりやすくなったほか、新しいオプションも追加されて、MusicXML ファイルのレイアウトとフォーマットを維持するかどうかを選択できるようになりました。
- MusicXML 2.0 ファイルを、非圧縮形式 (**.xml**) と圧縮形式 (**.mxl**) のいずれでも開けるようになりました。
- MusicXML 1.1 以降のファイルについて、レイアウトとフォーマットをインポートするときの精度が向上しました。譜表間隔、非表示の譜表、大譜表レイアウト、空白ページ、マルチレストなども正確にインポートされます。
- ピッチのないパーカッション譜表、ギターコードダイアグラム、符頭タイプ、非表示のオブジェクト、トレモロ、複合連音符、注記の調号など、MusicXML ファイルから多くの記譜をインポートできるようになりました。
- フォント、サイズ、テキストやラインの位置、ページに付いたテキスト（ヘッダー、ページ番号など）のサポート、小節番号など、MusicXML ファイルからのテキストオブジェクトのインポートが大幅に向上しました。
- MusicXML ファイルで小節の長さを決定する際のさまざまな問題（連音符、複声部、譜表をまたぐ連符、装飾音符などを表現する方法が多岐にわたることに関連）のため、編集しようとするまで小節が正しく表示されているように見えるが、編集する時点になって初めて小節の長さが間違っていることがわかる、という問題は解決されました。

パーカッション

- **【譜表タイプの編集】** ダイアログ ([ハウススタイル] ▶ **【楽器の編集】** からアクセス) で、符頭からドラムサウンドへのマッピングを編集する際、ドラムサウンドを General MIDI パーカッションサウンド、または特定の MIDI ピッチのプリセット一覧から選択することはなくなりました。マッピングは新しい SoundWorld サウンド ID によって定義されます。この方が、現代のハードウェア楽器およびソフトウェア楽器で提供されているさまざまなパーカッションサウンドをより正確に表現できます。
- パーカッション譜表で、符頭とアーティキュレーションを組み合わせ、オープンハイハットとクローズドハイハットのコントラストなどの特定のサウンドを作ることができます。

パフォーマンス

- **【再生】 ▶ 【パフォーマンス】** に、**【ライブプレイバックのベロシティを音が減衰しない楽器の強弱に変換】** という新しいオプションができました。このオプションをオンにした場合、ライブプレイバックのベロシティは、ボリュームにモジュレーションホイールを使用する、音が減衰しない楽器のアタックではなく、強弱に変換されます。

環境設定

- 新しい **【入力デバイス】** ページが、**【ファイル】 ▶ 【環境設定】** (Mac では **【Sibelius】** メニュー内) に追加されました。このページには、**【再生】 ▶ 【再生と入力デバイス】** の **【入力デバイス】** ページで使用されていたコントロールの一部が含まれています (このページは削除されました)。その他のコントロールは、**【ファイル】 ▶ 【環境設定】** の既存の **【音符の入力】** ページに配置されています。
- 新しい **【再生】** ページが、**【ファイル】 ▶ 【環境設定】** (Mac では **【Sibelius】** メニュー内) に追加されました。このページには、**【再生】 ▶ 【パフォーマンス】** ダイアログに表示されていた一部のコントロール、および Sibelius 4 で **【再生】 ▶ 【再生と入力デバイス】** の **【Kontakt Player オプション】** で使用されていたオプションと類似のオプションが追加されました。
- Sibelius のマルチユーザーインストール (**SCxF**、**SCxM**、**SCxW** で始まるシリアル番号) では、管理者ユーザーがプログラムを実行したときに、すべてのユーザーの環境設定がグローバル環境設定に書き込まれるようになりました。そのため、そのコンピュータの権限が制限されているユーザーアカウントで、アプリケーションを実行するたびに環境設定を設定する必要がなくなりました。

印刷

- **【ファイル】 ▶ 【印刷】** ダイアログが再編成されて、小さいディスプレイ解像度にも収まるようになりました。また、さまざまなオプションの **Alt+** 文字のショートカットが改良されました (Windows のみ)。

プロパティ

- **【プロパティ】** の **【譜表】** パネルは削除されました。
 - **【小さい譜表】** チェックボックスは **【作成】 ▶ 【楽器】** に移動しました。
 - 楽器の範囲の変更は、**【楽器の編集】** ダイアログで行います。このダイアログには、**【ハウススタイル】 ▶ 【楽器の編集】** からアクセスします。
 - 譜表の最初の譜表タイプを変更するには、**【作成】 ▶ 【その他】 ▶ 【楽器の変更】** を使用して譜表の最初の楽器を変更します。譜表タイプもここで変更します。
- **【プロパティ】** の **【一般】** パネルでは、現在の選択箇所のページ番号を読み出すことができ、便利です。
- **【プロパティ】** の **【ライン】** パネルには、個々のヘアピンの開きを調整できる新しいコントロールができました。上記のラインを参照してください。

新機能

- [プロパティ] の [再生] パネルには、ヘアピンとトリルの再生を調整できる新しいコントロールができました。

スキャンニング

- PhotoScore では、譜表をまたぐ連符、ピアノのペダルライン、リピート小節線、「1. 2.」括弧ライン、および他の新しい記号を読み取れるようになりました。
- PhotoScore Ultimate (PhotoScore Professional の新しい名前) で、手書きの符頭の一部を読み取れるようになりました。
- Sibelius で、PhotoScore ファイルからのマルチレストを正しくインポートできるようになりました。
- PhotoScore からインポートしたファイルのテキストの配置が改良されました。
- PhotoScore のキューサイズの音符が、Sibelius でキュー音符として正しくインポートされるようになりました。

選択とパッセージ

- 新しい [編集] ▶ [選択] ▶ [小節を選択] ダイアログ (ショートカットは **Ctrl+Alt+A** または **⌘+A**) を使うと、現在の小節からスコアの以降の小節、もしくはスコアの最後までをすばやく選択できます。
- スコア間での素材のコピーと貼り付けを行うと、素材をコピーしたスコアからハウススタイル全体がインポートされるのではなく、コピーした素材で使われていたテキストスタイル、ラインスタイル、譜表スタイル、符頭タイプ、記号だけが作成されます。
- 貼り付けた素材にスコアのスタイルと同じ名前を持つユーザー定義のスタイル (テキストスタイルなど) が含まれているが、そのスタイルの外観が一致しない (フォントが異なるなど) 場合、Sibelius は既存のスタイルを想定してオブジェクトを貼り付けるのではなく、ユーザー定義スタイルに別の名前を付けて貼り付け先のスコアに保存します。
- [編集] ▶ [選択] ▶ [さらに選択] を小節番号を選択した状態で使用すると、譜表上のすべての小節番号が選択されます。
- 小節線をまたがる音符のグループをコピーしても、貼り付けた音符に続く音符が誤って消去されることはなくなりました。

譜表

- [作成] ▶ [その他] ▶ [譜表タイプの変更] は Sibelius から削除されました。既存の譜表タイプを変更するには、[作成] ▶ [楽器の変更] を使用して、該当する譜表タイプを持つ楽器に変更する必要があります。39 ページの「楽器の変更」を参照してください。

シンボル

- [作成] ▶ [シンボル] のシンボルー覧は、ダイアログを開き直したときに正しい行に表示されるようになりました。そのため、以前に選択したシンボルを表示できるようになりました。
- 古楽の装飾記号、矢印、音符の束、追加のコンダクターのシンボルなど、180 を超える新しいシンボルが追加されました。43 ページの「Reprise およびその他のフォント」を参照してください。

テキスト

- 用語メニュー (テキスト入力中に右クリック (Windows)、または **control-** クリック (Mac) すると表示される) が、標準設定で大きくなりました。[ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー内) の [用語メニュー] ページで、用語メニューのフォントサイズも調整できるようになりました。

その他の改良機能と修正

- テキストは、選択してキーパッドのキューサイズボタンを押すか、[プロパティ] の [一般] パネルで [キューサイズ] チェックボックスをオンにすることによってキューサイズに設定できます。
- Sibelius には、譜表テキストと大譜表テキストに加えて、空白ページテキストという新しいテキストが追加されました。空白ページテキストは、改ページを使って作成した空白ページにのみ作成できます。
- [作成] ▶ [テキスト] サブメニューが再編成されました。歌詞テキストスタイルはすべて、新しい [作成] ▶ [テキスト] ▶ [歌詞] サブメニューに、新しい空白ページテキストスタイルは新しい [作成] ▶ [テキスト] ▶ [空白ページテキスト] サブメニューから見つけることができます。
- [ヘッダー (2 ページ目以降)] などのように、複数ページで繰り返されるが、最初のページでは表示されないように設定されているテキスト (添付先のページなど) は、添付先のページに表示されますが、1 ページ目では常に非表示になります。このため、テキストの添付先のページと表示時に表示されるテキストページの両方を作成する必要がなくなり、このテキストを作成するのが簡単になりました。
- ¥\$Time¥ および ¥\$FileDate¥ ワイルドカードで、時刻が現地の正しい形式で生成されるようになりました (Mac のみ)。

拍子記号

- [作成] ▶ [拍子記号] に、[次の拍子記号まで小節を書き直す] チェックボックスオプションができました。このオプションは標準設定でオンになっているため、次の小節を書き直すかどうかをたずねるメッセージが表示されて [OK] をクリックすることはなくなりました。
- パッセージを選択して拍子記号を作成すると、Sibelius は自動的に元の拍子記号に戻すための 2 つ目の拍子記号を選択箇所の最後に作成します。

移調

- [音符] ▶ [移調] を選択すると、移調の音程を指定しなくても、移調する調を直接選択できます。
- [音符] ▶ [移調] の新しい [先頭で調を変更] オプションを使用すると、大譜表のパッセージを移調するとき、自動的に新しい調号が選択箇所の先頭に追加されます。

トレモロ

[再生] ▶ [辞書] の新しい [アーティキュレーション] ページを使用すると、1 音符のトレモロやバズロール (符尾上の Z 記号) のそれぞれの再生動作を定義できます。

3 連符とその他の連音符

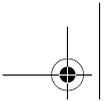
- Sibelius には、スコアの連音符の編集を一層簡単に行えるプラグイン一式が導入されました。詳しくは、46 ページの「プラグイン」を参照してください。
- 連音符をキューサイズにしたときの括弧と数字が正しく縮小されるようになりました。

ビデオ

- スコア再生と添付ビデオファイルの同期の精度が向上しました。
- Shift-[および Shift-] を使用すると、[29.97 (ノンドロップ)] を含めたすべてのフレームレートで、ビデオフレームを 1 フレームずつ進めることができます。

表示メニュー

- 新しい [表示] ▶ [パノラマ] メニューアイテム (ショートカットは Shift-P) を使うと、パノラマに切り替えることができます。

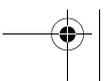
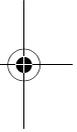
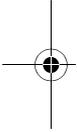


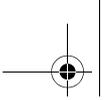
新機能

- 新しい [ページ高さに合わせる] 倍率は、パノラマを使用する場合に便利です。

ウィンドウメニュー

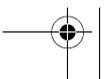
- [ウィンドウ] ▶ [Kontakt Player] は、Kontakt Player 2 および他のバーチャルインストゥルメントに [ミキサー] メニューからアクセスできるようになったため、削除されました (対応するツールバーも廃止されました)。
- 新しい [ウィンドウ] ▶ [アイデア] メニュー (ショートカットは **Ctrl+Alt+I** または **⌘+I**) とツールバーボタンを使用すると、新しい [アイデア] ウィンドウの表示と非表示を切り替えることができます。30 ページの「アイデア」を参照してください。

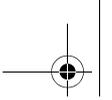




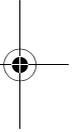
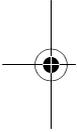
付録

付録





付録



付録 A : Sibelius 4.1.5 までの改良機能

以下は Sibelius 4.1.5 までの最も重要な改良機能を一覧にしたものです。一般に、バグ修正はこの一覧には記述されていません。

改良機能には追加先のバージョンごとに (v2)、(v3)、(v4) などと注記されています。Sibelius 1.x からのアップグレードの場合は、Sibelius 5 の新機能以外に、Sibelius 2、Sibelius 3、Sibelius 4 で追加された 600 以上の改良機能も導入されています。

詳しくは、『リファレンス』の該当箇所を参照してください。

機能	改良機能
臨時記号	和音での臨時記号の配置を改良しました (v2)。臨時記号の非表示機能を追加しました (v3)。
アレンジ™	楽譜を 140 以上のスタイルが用意された (「エクスプロード (拡散)」と「リダクション (要約)」を含む) 楽器の組み合わせに適切にコピーすることで、アレンジやオーケストレーションの時間の短縮を実現しました。また、独自の楽譜を作成できます (v2)。
アーティキュレーション	反転が可能。アーティキュレーションは音符の符尾側に自動配置され、その場合は符尾の中央に配置されます (v2)。
ASCII タブファイル	ASCII タブファイルをインポート / エクスポートします (v3)。
小節線	古楽の小節線 (譜表の小節線の間、ティック、ショート) と標準設定の小節線タイプを設定するオプションを含んでいます (v2)。
小節番号	マルチレストはその下に小節番号の範囲を示し、小節番号はどんな距離間でもドラッグできます。また、小節番号は、そのテキストスタイルの水平位置オプションを考慮した上で設定されます (v4)。
連桁	休符を越える連桁、連音符の連桁、連桁グループの編集などの連桁の処理機能がさらにパワーアップ (v3)。連桁の位置 (オブティカル) のアルゴリズム、改行や改ページをまたぐ連桁、分断された連桁の方向の反転、フランス式連桁機能が改良されました (v4)。
括弧と大括弧	大譜表の左側に小節線がない場合には、括弧と大括弧は非表示になります (v3)。
ブレイク	作成されたパート譜では、休符のあとで自動ページの自動改ページが行われます (v3)。
コードダイアグラム	コードダイアグラム (ギターフレーム) は移調し、ライブラリに保存して簡単に共有できます (v3)。また、その上下に運指を表示できます (v4)。
コード記号	Inkpen2 Chords と Opus Chords、新しい Opus Roman Chords および Opus Japanese Chords フォントには新しい文字が含まれています (v4)。
カラー	スコア内のたいていのオブジェクトのカラーを変更します (v3)。
表示設定	OpenGL や Mac OS X などの新しい表示スムージングオプションを含んでいます (v3)。多数の高品質な背景テクスチャ (デスクトップや紙の色) により作業環境がより快適になりました (v2)。
ドキュメントセットアップ	左ページと右ページにそれぞれ余白が設けられました。新しい「譜表の余白」機能により、楽器名に関連する譜表の位置を特定できます (v2)。新しい標準ページサイズをパート譜用に作成しました (v4)。

付録

機能	改良機能
ダイナミックパート	楽器パート譜はフルスコアと同じファイルに保存されます。スコア内の変更はパート譜に自動的に反映されます（逆も同様）。すべてのパート譜を自動的に印刷します。新規「自動レイアウト」ダイアログには自動改行と自動改ページ機能が含まれています（v4）。
テキストスタイルの編集	新しい「すべてのフォントを編集」ダイアログを使って、スコア内で使用するフォントをすばやく変更できます（v3）。
オーディオのエクスポート	Kontakt Silver または Gold を使って、スコア内のデジタルオーディオファイルを保存し、CD に直接書き込む準備ができます（v3）。
グラフィックのエクスポート	グラフィックを他のアプリケーションにコピー & 貼り付けします（v4）。フォントを ESP ファイルに埋め込み、選択したプログラムに最も適したエクスポートフォーマットを自動的に選択できます（v2）。
ファイル	プログラムの初回起動時に、新しい「クイックスタート」ダイアログが表示されます（v3）。新しいスコアダイアログを使って、わずか5ステップでスコアを作成できます（v3）。Sibelius 2、Sibelius 3、G7、Sibelius Student フォーマットでスコアをエクスポートできます（v4）。
フィルターと検索	新しい「詳細フィルター」ダイアログや「検索/次を検索」ダイアログ、および多数の新しい「クイックフィルター」機能を追加しました（v2）。
フレキシタイム	楽譜を2つの声部に自動的に分割します。スタッカートやテヌート用にユーザー指定可能なしきい値を持ちます（v3）。
譜表にフォーカス	表示したくない譜表をすべて非表示にし（音符が含まれている場合でも）、作業したい譜表だけを表示します（v3）。
ギタータブ	バンドやスライドなどのギタータブ記号を総括的にサポート（およびそれを再生）。キーボードを使った新しいタブ入力方法、新しいタブ譜表タイプ、タブ内の符尾の長さを設定するための新しいオプションを含んでいます（v2）。
オブジェクトの非表示	スコア内のたいていのオブジェクトを非表示にできます。たとえば、非表示のキューを使ってスコアを書き込んだ場合は、作成したパート譜で再表示されます（v2）。
ハイライト	蛍光ペンで楽譜に書き込みを行います（v2）。
ハウススタイル™	新しい「ハウススタイル」メニューにはスコアの外觀の調整に必要なすべての設定が含まれています（v2）。多くの場合でハウススタイルは用意されており、中には異なるテキストフォントを使用するものもあります（v4）。
グラフィックのインポート	カラーとモノクロームの TIFF グラフィックをインポートします（v2）。
楽器	Sibelius では、400 を超える楽器がサポートされています（v3）。各楽器には「一般奏者用」音域と「プロ奏者用」音域の2種類の音域があり、赤色の2つの濃淡レベルで表示しています（v2）。楽器ダイアログを使うと、譜表を作成後に並べ替えることができます（v3）。
インターネット出版	Mac の Scorch にはテンポスライダが付いています（v4）。Scorch には高度な再生機能とグラフィックのカラー印刷機能が搭載されています（v2）。サイトを訪れた人が Scorch を使って自分のスコアを印刷して保存できるかどうかを選択できます（v2）。
キーボードショートカット	合計 200 以上のキーボードショートカットが用意されているため、マウスを使わずにたいていの作業ができるようになりました。独自のキーボードショートカットを作成したり、不要な機能を無効にしたりできます（v3）。
調号	別の譜表にそれぞれ異なる調号を入力できます（v2）。

付録 A：Sibelius 4.1.5 までの改良機能

機能	改良機能
Kontakt Player	Sibelius には、高品質な再生機能を提供する Native Instruments のソフトウェアサンプル再生デバイスが含まれています (v3)。Sibelius Sounds には、追加のサウンドライブラリも幅広く用意されています (別売) (v4)。
ライン	<i>rit./accel.</i> の再生用の新しい大譜表ライン (v2)。
ライブプレイバック	フレキシタイムから入力、または MIDI ファイルからインポートした楽譜のタイミングと強弱を正確に再現することで、パフォーマンスの微調整を行うことができます (v3)。
歌詞	歌詞を他のプログラム (ワードプロセッサなど) にコピー & 貼り付けしたり、あるいは他のプログラムにコピー & 貼り付けします (v2)。歌詞の間隔と日中韓文字の言語の歌詞用に新しいオプションが設けられています (v3)。
ManuScript 言語	内蔵 ManuScript プログラム言語に多数の改良が加えられました。
譜面用紙	60 以上のあらかじめ定義されている譜面用紙が用意されています。
メニューとショートカット	Sibelius Coloured Keyboard (色付きキーボード) とノートブック (ラップトップ) コンピュータ用に新たにキーボードショートカットを用意しました (v4)。
ミキサー	サイズ変更可能なミキサーウィンドウはサウンドダイアログを置き換えるため、再生をリアルタイムで調整できます (v2)。
マルチレスト	マルチレストが長いほど水平方向の幅も広がります (v4)。
音楽フォント	Helsinki 音楽フォントを新たに追加しました (v4)。Opus Metronome および Opus Figured Bass フォントを新たに追加しました (v4)。古い Inkpen フォントに代わって、Inkpen 2 音楽フォントを新たに追加しました (v2)。
符頭	無音および符尾なしの符頭など標準設定の符頭タイプの数 は 24 に上ります (v3)。
音符の入力	カーソルは音符の入力時の位置を示します。コンピュータのキーボードを使って音符を入力するときに、テキスト、調号、和音などを作成します。複数コピー機能を使って、強弱記号をバンド/オーケストラの各譜表にコピーしたり、または小節にオスティナートパターンを挿入します (v2)。「シャドー音符」は作成しようとする音符の声高を示し、音符はマウスを使って空白の小節内の任意の位置に作成できます。声高の再入力機能が改良されたおかげで、既存の音符を再入力せずにその声高を変更できます (v3)。Sibelius では、音符の入力および編集時に、画面が頻繁に移動することはあまりありません (v4)。
音符間隔	音符間隔 (オブティカル) を取ることで衝突を避け、連音符間隔などをうまく調節できます (v3)。
MIDI ファイルを開く	マーカーをヒットポイントとしてインポートします (v4)。連音符の認識機能が改良されました (v4)。
MusicXML ファイルを開く	Finale 2003 以降またはその他の音楽アプリケーションで作成された MusicXML 1.1 ファイルをインポートします (v4)。
ページ番号	ページ番号はページ余白の代わりに譜表の余白に揃えることができるようになりました (v3)。
パーカッション	新しいバズロール (符尾上の Z 記号) オプションにより、拍子なしのトレモロとして再生を行います (v4)。
パフォーマンス	新しいルバートとリズムクフィーの再生オプションにより、よりリアルな音で再生します (v2)。

付録

機能	改良機能
再生	<i>rits.</i> 、 <i>accels.</i> 、グリッサンド、ギターベンド、スライドを再生します (v2)。複雑なリピート (D.C.、D.S.、Coda など) やメトリックモジュレーションなどを再生します (v3)。新しい再生ウィンドウには高度な移調管理機能が搭載されています (v4)。
プラグイン	コード記号の音符化 (v3)、アーティキュレーションとスラーをコピー (v4)、簡単な和音を追加 (v4)、オブジェクトに解析 (v4) など、60 を超える新しいプラグインが内蔵されています。
印刷	フッターに日付と時刻を印刷します。2 面割付け印刷モードを新たに搭載 (v4)。
プロパティ	新しいプロパティウィンドウには 7 つの折りたたみ可能なパネルが含まれており、このパネルを使ってオブジェクトを個々または一度に調整できます (v2)。
スキャニング	PhotoScore Lite は同じ譜表上の 2 つの声部を読み取り、移調スコアの処理とギタータブの読み取り作業を行います (v3)。また、すべてのページを自動的にスキャンして読み取ることもできます (v4)。
Sibelius リファレンス	ユーザーガイドの内容を表示するには、画面上の [ヘルプ] > [Sibelius リファレンス] を参照してください (v4)。
サウンドセット	総合的なサウンドセットエディターにより、ユーザーは非対応の MIDI デバイス用のサウンドセットを作成できます (v3)。
譜表間隔	[譜表の整列] ダイアログではスコア全体にわたって譜表の位置を正確に設定できます。[譜表のルーラー] は譜表間の距離を表示します。譜表を移動するにはキーボードショートカットを使用できます (v2)。
譜表	Sibelius では、1 つまたは複数の譜表が大譜表内で非表示になっている部分には青色の破線が表示されます。大譜表は右側からインデントすることができるようになりました (v3)。
シンボル	多数の新しいシンボルを追加しました。シンボルは譜表だけでなく大譜表にも付けることができます (v3)。
テキスト	テキストには譜表サイズに関係なく一定のサイズを設定できるようになりました。新しいワイルドカード機能を使うと、[ファイル] > [スコア情報] の値を、スコアのテキストオブジェクトに自動的に代用できます。また、用語メニューも改良され、数字付き低音にも完全対応 (v4)。
タイ	タイ (オプティカル) は標準設定ではきれいな形のタイになります。タイの終点は任意の距離までドラッグできます (v4)。
タイムコード	再生時はツールバーのテンポとタイムコードの値が表示されます。スコアの演奏時間を計算し、最後にその情報を印刷します。各小節線の上にタイムコードをさまざまなフォーマットで書き込みます (v2)。リピートを考慮に入れます (v3)。新しいフレームレートを追加しました (v4)。タイムコードとヒットポイント専用のテキストスタイルを用意しました (v4)。
トレモロ	トレモロの外観を決めるハウスタイルオプションを含んでいます (v2)。トレモロを再生するかどうかを決めるプロパティオプションを含んでいます (v4)。
3 連符とその他の連音符	スラーのように適切に配置された「マグネティック」3 連符 (v2)。
チュートリアルビデオ	20 のビデオに目と通すことで、Sibelius の主な機能をすべて理解することができます (v4)。

付録 A : Sibelius 4.1.5 までの改良機能

機能	改良機能
ビデオ	ビデオをスコアに追加し、同期再生することで、楽譜を画像に書き込むことができます (v4)。
表示メニュー	声部に応じて音符を色付けしたり、または実音ピッチに応じて音符を色付けする (「声高スペクトル」といった、新しい音符のカラーオプションを含んでいます (v2)。
ウィンドウメニュー	新しい [ウィンドウ] > [ツールウィンドウを非表示] オプションと、ツールウィンドウ用のツールバーボタンを新たに追加しました (v4)。
ワークシート クリエーター	ワークシートクリエーターからは 1700 の既成のワークシート、プロジェクト、練習問題、曲、楽器、ポスター、参考資料など、その他多くのリソースを選択することができます (v4)。

付録

付録 B：メニューの変更

以下の表に、Sibelius 5 で変更になった Sibelius 4 の全メニューアイテムを示します。まったく新しいメニューアイテムについてはここでは取り上げていません。

Sibelius 4	Sibelius 5
[作成] ▶ [その他] ▶ [譜表タイプの変更]	削除されました。[作成] ▶ [その他] ▶ [楽器の変更] を使用してください。
[作成] ▶ [その他] ▶ [移調の変更]	削除されました。[作成] ▶ [その他] ▶ [楽器の変更] を使用してください。
[再生] ▶ [代替デバイス]	削除されました。
[再生] ▶ [再生と入力デバイス]	再生デバイスオプションは [再生] ▶ [再生デバイス] に、入力デバイスオプションは [ファイル] ▶ [環境設定] (Mac では [Sibelius] メニュー内) [入力デバイス] ページに変更になりました。
[再生] ▶ [サウンドセットの編集]	削除されました。
[再生] ▶ [Garritan Personal Orchestra Options]	削除されました。
[レイアウト] ▶ [譜表にフォーカス]	[表示] ▶ [譜表にフォーカス]
[レイアウト] > [楽器と譜表]	[作成] ▶ [楽器]
[ハウススタイル] ▶ [譜表タイプの編集]	削除されました。[ハウススタイル] ▶ [楽器の編集] を使用してください。
[ウィンドウ] ▶ [Kontakt Player]	削除されました。[ミキサー] からバーチャルインストゥルメントの表示と非表示を切り替えてください。

Sibelius 3 から Sibelius 4 への主なメニュー変更：

- Sibelius 4 には単一のマルチページ [ファイル] ▶ [環境設定] ダイアログ (Mac では [Sibelius] メニュー) ができ、[表示] ▶ [スムージング] や [表示] ▶ [テキストチャー] など、Sibelius 3 の他の多くのダイアログ、およびさまざまな新しいオプションが1つにまとめられました。
- ファイルをエクスポートするすべての操作 (以前のバージョンの Sibelius や MIDI ファイル、グラフィックファイルとして保存するなど) を、[ファイル] ▶ [名前を付けて保存] ではなく、[ファイル] ▶ [エクスポート] を通じて行うようになりました。
- [ハウススタイル] ▶ [マルチレストを使用する] は [レイアウト] ▶ [自動レイアウト] ダイアログに移動しました。ただし、**Ctrl+Shift+M** または **⌘+M** のショートカットは従来どおり使用できます。

Sibelius 2 から Sibelius 3 への主なメニュー変更：

- 最近作業したファイルの一覧は [ファイル] ▶ [最近使ったファイルを開く] サブメニューに移動し、ファイル数も 10 個に増えました。
- [作成] メニューが簡略化され、使用頻度の低いアイテムは [作成] ▶ [その他] サブメニューに移動しました。

付録C：キーボードショートカット

以下に説明するように、Sibelius 5 には多数の新しいショートカットと、変更された既存のショートカットがあります。

新しいキーボードショートカット

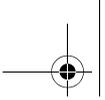
以下は Sibelius 5 の新しいキーボードショートカットの一覧表です。

機能	Windows ショートカット	Mac ショートカット
[編集] ▶ [アイデアのキャプチャ]	Shift + I	⇧I
[編集] ▶ [キューとして貼り付け]	Ctrl + Shift + Alt + V	⇧⌘V
[編集] ▶ [選択] ▶ [小節の選択]	Ctrl + Alt + A	⇧⌘A
[編集] ▶ [小節の削除]	Ctrl + Delete	⌘ + Delete
[表示] ▶ [パノラマ]	Shift + P	⇧P
[レイアウト] ▶ [ブレイク] ▶ [特殊な改ページ]	Ctrl + Shift + Return	⇧⌘Return
[ウィンドウ] ▶ [アイデア]	Ctrl + Alt + I	⇧⌘I

旧バージョンのショートカットに加えられた変更

以下の表に、Sibelius 5 で旧バージョンのショートカットに加えられた変更を一覧します。

機能	旧	Sibelius 5
Sibelius 4 のショートカットに加えられた変更		
[再生] ▶ [パフォーマンス]	Shift + P	ショートカットなし
Sibelius 3 のショートカットに加えられた変更		
巻き戻し / 早送り	←/→	[/]
[編集] ▶ [表示 / 非表示] ▶ [表示]	Ctrl + Shift + S または ⇧⌘S	Ctrl + Shift + H または ⇧⌘H
[ウィンドウ] ▶ [ミキサー] (Mac のみ)	⇧⌘M	M
ノート型パソコンのテンキー用のショートカット (Windows のみ)	Ctrl + Alt + Q/W/E/R/A/S/ D/Z/X/C/R	代わりに、[ノートブック型 (ラップトップ) 機能] を使用してください
[ファイル] ▶ [パート譜の作成]	Ctrl + Shift + X または ⇧⌘X	ショートカットなし
Sibelius 2 のショートカットに加えられた変更		
[表示] ▶ [音符のカラー] ▶ [範囲外の音符]	Ctrl + Alt + N または ⇧⌘N	ショートカットなし
[表示] ▶ [音符のカラー] ▶ [音高スペクトル]	Ctrl + Alt + P または ⇧⌘P	ショートカットなし
[作成] ▶ [コードダイアグラム] (旧ショート カットは [作成] ▶ [ギターフレーム])	U	Shift + K
[作成] ▶ [テキスト] ▶ [メトロノーム記号]	Ctrl + M または ⌘M	ショートカットなし
[音符] ▶ [音符の入力]	V	N
[ウィンドウ] ▶ [プロパティ]	Ctrl + I または ⌘I	Ctrl + Alt + P または ⇧⌘P



付録

